

604-446



1200501531704

4

446

練習船

日本丸
海王丸

航海報告

第十四輯

航海練習所

日本丸
日本丸

總目次

日本丸第二十三次航海報告

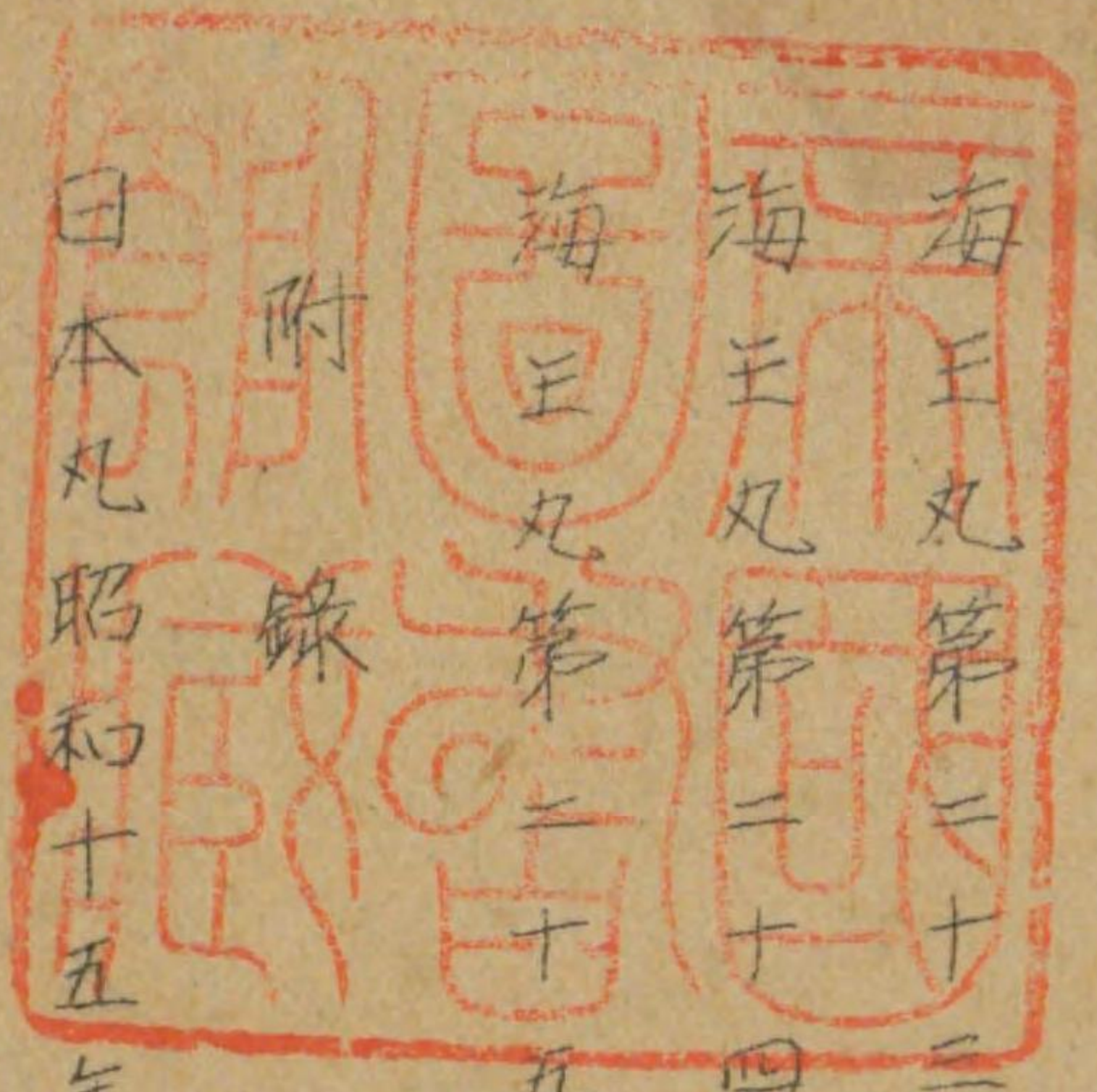
日本丸第二十四次航海報告

日本丸第二十五次航海報告

海王丸第二十三次航海報告

海王丸第二十四次航海報告

海王丸第二十五次航海報告



日本丸昭和十五年年度第一次短期航海報告

日本丸昭和十五年年度第二次短期航海報告

日本丸昭和十六年度第一次短期航海報告

發行所寄贈本



一

三大

八四

一一一

一四四

一三三

二一六

二二〇

二三二

日本丸昭和十六年度第二次短期航海報告 二四三

海王丸昭和十五年度第一次短期航海報告 二四九

海王丸昭和十五年度第二次短期航海報告 二五三

海王丸昭和十六年度第一次短期航海報告 二六五

海王丸昭和十六年度第二次短期航海報告 二九〇

日本丸第二十三次航海報告



604
446

自昭和十六年二月十日
至昭和十六年三月十五日

各港着発月日表

港名	入港月日	出港月日
東京	—	昭和十六年三月一日
サイパン	二、二七	三、六
口タ	三、七	三、一〇
横浜	三、二五	三、五
東京	三、二五	—

目次

一	乘員名簿	三
二	諸表	五
(A)	各港着発日時表	五
(B)	航海摘要	六
(C)	各港出帆現状表	八
(D)	航海一覽表	一〇
三	訓練表	一四
四	航海記事	一六
五	寄港地事情	二一
六	學習記事	二二
七	機關狀態	二七
八	衛生狀態	二八
九	通信狀態	三一
一〇	總括航海圖	三五

一 乘員名簿 (一四名)

船長 名古屋松太郎

一等運転士 柏野栄一 次席一等運転士 長倉徳行、二等運転士 今村茂一郎

三等運転士 宮西登 三等運転士 金山弘 四等運転士 細野匡男

機関長 後津守信 一等機関士 若松了 二等機関士 土屋久太郎

車務長 外岡常彦

船医 松井篤二

首席通信士 佐野男 次席通信士 両角凌男

硬果者 (二名)

灯内英雄 洋画家 佐々木弘

生徒 (五三名)

船山高橋孝文 (六名)

塚田 仁、堀江栄三郎、橋 勇二、梶谷甚一郎、湊 義雄、二口庄二

鷗羽商船学校 (七名)

各務正司(研) 小島芳男、畑下 修、中井定夫、室谷大雄、竹本 規、泉 豊治

大島商船學校(八名) 兼守金治(研) 栗栖礼一郎(10) 中村 茂、中田 保、岡田 清、原田種一

平井 博、津田一男 鹿兒島商船學校(八名) 入米院重尚(研) 横山親芳、福田盛行、日笠山芳久、今村正利、肥後健一

富田政彦、前川 浩 廣島商船學校(十一名) 倉岡金司(研) 井口康彦、楢松義郎、小田原武喜、柳原一三、岡本頼七

山田薰明、小早川岩男、小林 博、渡辺 毅、鳥枝義明 粟島商船學校(六名)

石川久次郎(研) 山本幸男、中浜春雄、道上幸一、林田和照、金子 儀 弓削商船學校(五名)

都井信保(研) 内田英夫、山崎金男、村上清、小池行孝 朝鮮總督府通信局高等海員養成所(二名)

白原光雄、大橋健雄 普通海員

水夫長	上崎采藏	水夫長	加藤富五郎	大工	切石寅造	舵取	坂島寅作
舵取	山本政藏	取取	渡辺政五郎	看護手	定田七藏	信子	石生田敏夫
水夫	永田洋吉	水夫	神成精四郎	水	佐藤俊雄	水夫	山崎仙藏
水夫	野口芳雄	水夫	畑中栄治	水夫	小野正作	水夫	鈴木正美
水夫	奥坂時一	水夫	田中春太郎	水夫	松本 廣		
水夫長	高川高介	油差	小林輝治	水夫	増田 滿	水夫	山本鐘一
水夫	鈴木 輝	水夫	綱代梅吉	水夫	植田吉藏		
司厨長	高橋房吉	料理人	増住重雄	料理人	小林 茂	料理人	寺田正治
料理人	村石甚作	料理人	小山茂一郎	料理人	土屋清治郎	給仕	八角桂市
給仕	齊藤啓紀	給仕	浅田功吉	給仕	東本光男	給仕	湯沢利喜

(A) 各港着船日時表

飲料	排水	吃			員 組 乘				出 港	年 月 日	名
		平	後	前	便	普	生	職			
料	水	均	部	部	合	通	徒	員	者	計	者
四六二噸。	一米〇九	五米八五	五米九五	五米七五	一〇七名	二名	三八名	五三名	一四名		東 京
三六〇噸。	三六〇。	五米八〇	五米九〇	五米七〇	一〇七名	二名	三八名	五三名	一四名		廿 一 日
三八〇噸五	〇米九七	五米八〇	五米九〇	五米七〇	一〇七名	二名	三八名	五三名	一四名		廿 三 日
三六九噸。	〇米九六	五、七〇	五、七五	五、六五	一〇七名	二名	三八名	五三名	一四名		廿 六 日

(2)

各港出帆現狀表

考 備		數 日 泊 碇			均 平
缶	水	總	橫	口	總
消	消	計	換	夕	計
費	費				
量	量				
五噸。	五噸。	一〇日	三日	六日	四・五二
四噸五。	六噸。	三時三五分	三時五〇分	二時〇五分	八・三八
六噸五。	二八噸。	假泊	假泊(根岸灣)	三日七時二五分	八・四四
一六噸。	一四一噸。	三日七時二五分			四・五八
七噸四四					

燃料	油	九八脱三五	九四脱三四	九一脱五。
炊事用石炭	二五脱。	二一脱。	二〇脱。	
固定バラスト	六五九脱八			
海水バラスト				
備種	倉庫品其他約一六。 ア リ	一二脱九	一二脱六	

(D) 航 船 一 覽 表
往 航 自 東京 至 十ノパン * 十ノパン 航 船

月日	正午	位置	航時	針路	航程	風向	風力	天候	氣圧	気温	水温	一日		海流	航程
												風向	風力		
10	35-36 N	139-47 E	*0-30	北	*3	N/E	2	C	757.0	2.0	2.0	N/E	4		-
11	33-22 N	142-11 E	*4-20 *9-27	北	*12 *16	N/E	4	B	763.5	11.0	14.5	S/E	4	151	25.0
12	32-54 N	143-23 E	23-53	北	67	S/W	5	B	764.0	16.0	14.0	S/W	5	北	晴
13	31-22 N	147-25 E	23-44	北	209	WSW	6	B	758.0	18.0	15.5	S/W	6		-

14	28-52 N	143-54 E	23-53	北	177	N/E	4	B	763.0	15.0	14.0	N/E	4	187	40.5
15	28-29 N	150-02 E	23-57	北	64	South	4	B	763.5	20.0	18.5	South	4	156	11.0
16	27-11 N	150-41 E	23-57	北	85	N/W	2	B	767.5	18.5	16.5	N/W	3	+	E
17	26-03 N	151-19 E	23-58	北	96	N/E	3	B	768.0	18.0	18.0	N/E	3	260	8.2
18	25-00 N	151-09 E	24-00	北	64	SSW	1	B	766.5	23.0	20.0	SSW	1	169	9.0
19	23-58 N	151-16 E	24-00	北	62	N/E	1	B	765.0	24.0	21.0	N/E	1	146	4.9
20	22-07 N	150-50 E	24-02	北	114	E/N/E	5	B	764.5	24.5	23.0	E/N/E	4	190	5.1
21	20-20 N	150-17 E	24-02	北	111	E/S/E	4	B	763.5	26.0	23.0	East	3	224	5.5
22	18-40 N	149-40 E	24-02	北	107	E/N	4	B	763.5	26.5	23.0	E/S	2	190	5.1
23	17-06 N	148-58 E	24-03	北	102	E/S/E	3	B	762.5	27.5	23.5	E/S	3	213	20.1
24	16-24 N	147-38 E	24-06	北	87	E/S/E	3	B	761.5	28.0	24.0	E/S/E	3	226	11.4
25	16-01 N	147-04 E	24-02	北	40	S/S/E	1	B	760.0	29.5	24.0	S/S/E	2	0	7.0
26	15-42 N	146-54 E	24-00	北	207	West	1	B	762.0	28.0	25.0	N/W	1	263	4.9
27	15-18 N	145-44 E	24-34	北	72	E/S/E	2	B	762.0	26.0	23.5	E/S/E	3		

28	11	1	18°N	*0-51 1-24	不 定	*4 4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
----	----	---	------	---------------	--------	---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

横 航 自 サイパン 至 口夕

月日	正午位置		航海時間	針路	航程	風向	風力	天候	氣圧	氣温	水温	一日主要		航海	航程
	緯度	經度										風向	風力		
10月 7	廿	18°N	21-04	不 定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	口	夕	21-04	11-	77	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

横 航 自 口夕 至 横 航

月日	正午位置		航海時間	針路	航程	風向	風力	天候	氣圧	氣温	水温	一日主要		航海	航程
	緯度	經度										風向	風力		
11月 1	16	34°N	*0-15 23-20	不 定	*2 69	ENE	6	bc	763.0	23.5	24.0	ENE	6	218	17.2
12	18	49°N	24-04	338	14.5	E/S	3	b	744.0	28.0	23.0	E/S	3	188	14.1
13	20	08°N	24-04	325	9.6	ENE	4	b	765.5	27.5	24.0	ENE	4	247	10.2
14	22	07°N	24-04	333	13.3	E/S	4	bc	765.0	26.5	22.0	E/S	3	192	9.2

*印ハ概ニナ

15	22	48°N	24-00	10	4.2	NW/1	1	b	765.5	30.0	23.0	NE	4	120	16.0
16	23	48°N	24-06	56	10.9	NE/E	4	bc	765.0	23.0	20.0	ENE	4	270	1.8
17	25	56°N	24-05	332	14.5	South	5	c	760.0	23.0	20.0	S/W	5	265	11.8
18	28	48°N	24-06	337	18.7	W/S	7	bc	756.0	20.5	18.0	W/S	7	156	2.2
19	30	38°N	23-56	123	11.9	W/S	5	b	761.0	19.0	18.0	W/S	5	101	21.2
20	32	23°N	24-00	354	10.6	W/S	3	b	764.0	19.0	14.0	W/S	3	150	6.9
21	34	22°N	24-02	28	13.5	WSW	5	b	760.0	19.0	18.0	WSW	5	192	23.6

横 航 自 横 航 至 東 京

月日	正午位置		航海時間	針路	航程	風向	風力	天候	氣圧	氣温	水温	一日主要		航海	航程
	緯度	經度										風向	風力		
12月 26	35	33°N	1-25	不 定	10	W/E	5	b	763.0	7.5	7.0	W/E	5	不	明
	東	東	0-25	11-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

三 訓練表

年月日(曜)	訓練種類	開始終了時刻	摘 要
昭和十六年 二月十二日 (水)	端艇操練	自午前八、五五 至九、二〇	人員點呼、要具整備、船長點檢、 及一等運転士端艇操練ニ対スル心 得注意ヲ達ス 為令ト共ニ本船ヲ踞蹠シ直ニ第 六号艇ヲ救助艇トシテ泳シ引續キ 第四号艇ヲ増援セシメ後本船復針 中ニ之ヲ隨行帆走セシメタル後再 ビ船速ヲ止メ降下艇ヲ收窓復針ス 本船前部ニ火災アルヲ想定シ消火 器、消火ポンプノ作動應停通風機 断部着作業等ヲ訓練終リテ船長莫 檢入、水イデ消火器、防毒面ノ性
二月十九日	溺者救助操練	自午前八、五五 至九、一〇	
二月二十六日	火災操練	自午前八、五五 至九、二五	

二月二十六日 (水)	端艇操練	自午前九、三〇 至一〇、四〇	能試験ヲ行フ 總端艇部署ニ就カシメ第四、五六号 艇降下、生徒ニ隻、普通海員一隻 ニテ撓走及帆走ヲ行ヒ、端艇及要具 ヲ復旧シテ操練ヲ終ル 生徒四隻、研究生一隻、職員一隻 普通海員一隻ヲニ回戦トシテ航走 巨離五七〇。米ヲ帆走競争ヲ行フ 午前一時。五分總員操艇部署ニ就 カシム、風位西微南、風力五、第 一回ハ左舷開ヨリ右舷開ニ、第ニ 回ハ右舷開ヨリ左舷開トナス、生 徒一ヶ分隊宛交代シテ見学セシム
三月四日 (火)	端艇帆走競走 (廿八ノ破習中)	自午前八、三〇 至九、三〇	
三月十九日 (水)	上手回操練	自午前八、五五 至九、四五	

四、航 石 記 事

往 航 概 況

東 京 — サイパン

昭和十六年二月六日東京港品川錨地ヨリ芝浦岸壁ニ僚船海王丸ト共ニ輕繫、諸般ノ航海準備ヲ完了ス。二月十日関口航海練習所長其他關係者數多ノ見送ヲ受ケ、全日午前十一時三十分出港サイパンニ向フ。

翌二月十一日皇紀二千六百年ノ紀元節ヲ帝都ヲ去ル百八十哩ノ洋上ニ迎ハ送拜式ヲ挙行、聖壽ノ萬歳ヲ壽ギ奉リ、皇國ノ隆昌ヲ祈願ス。

航海中ハ氣象狀況極メテ練習航海ニ適シ帆走ニ始終シ、二月二十七日午後二時十五分サイパン港ニ入港セリ、本航海ノ狀況左ノ如シ。

(1) 日本近海、二月十日午後四時一小時低気圧通過後ノ偏北風ヲ得テ洲ノ崎燈台三哩ノ地矣ヨリ總帆ヲ展裝、帆走ヲ開始ス。爾來北又ハ北東ノ疾風又ハ雄風ニ惠マレ其ノ後風位多少ノ変動アリシモ予定ノ針路ヲ保テ得テ快走ヲ続ケ十四日ニハ既ニ北緯二十九度東経百四十九度ノ線ヲ突破セリ。途中十三日午後典型的一大不連続線ニ遭遇シ、風位南西ヨリ北東ニ急転シ、気温五度以上モ急降下、海上波浪高ク

船体ノ動搖激甚ヲ極メシモ東員一同元氣旺盛、意氣軒昂、予定ノ進路ヲ南東ニ航進ヲ続ケタリ。此ノ四日間ノ航走巨離平均一五三哩、時速平均六、七節ナリ。

(2) 微風区域 二月十五日早クモ微風区域ニ入ル。此区域初期ニ於テハフスコールノ襲來ニヨリ風位偏北ニ転センコトアリシモ漸次風力衰弱シ、風向区々タリナ、然レドモ逆風ニ遭遇シ又ハ暴風ニ惱マサレシ事ナク、概シテ順調ニ針路ヲ保持シテ事ナク概シテ順調ニ針路ヲ保持シ得テ南下シ二月十九日北緯二十三度、東経百五十一度ニ達ス。此ノ五日間航走巨離一日平均七二哩、時速平均二、九三節ナリ。

(3) 恒風区域 二月二十日ヨリ東北東乃至東南東ノ恒風ニ駕シ、時ニ詰開トシ、或ハ速力ヲ加減シツ、南下ス、斯クシテ恒風区域特有ノ天候ニ慮マレ順調平穩ナル航海ヲ続ケタリ。恒風帯ニ入りテヨリ僚船海王丸ト接近ヲ試ミ、二十一日ヨリ兩船編隊隊型ヲ整ヘ各種ノ訓練ヲ実施シ得タリ。○二月二十五日サイパン島ヲ巨ル一〇〇哩ノ地矣ニ於テ風力衰弱シ風向区々一昼夜ニ及ビタルモ其後恒風吹起シ特ニ二十七日早曉サイパンノ島影ヲ視認シタル頃ヨリ風力漸次増加シ快速力ヲ得、二月二十七日午後一時二十四分サイパン錨地ヨリ四哩ノ地矣ニテ俄然風力衰弱シタレ

バ校帆機走ニ移リ、全日午正二時十五分サイパン港ニ投錨一日ノ早着ヲ見タリ。
 ○恒風帯八日間ノ航走巨萬一日平均八二哩時速平均二、四節ナリ。

サイパン碇泊

月日	曜	行	事
二、二七	木	午正着港、タイノ塗粧施行	生徒茶話會
二、二八	金	船長公式訪問	半船宛半日上陸
三、一	土	興亜奉公日、職員生徒総員、彩帆神社参拜後団体見学	
二	日	半舟直自由上陸	午前職員対研究生野球試合、午正生徒対実業学校角力試合、夜高橋氏講演會(於海王丸)
三	月	半船自由上陸	午正実業学校対武道試合
四	火	早曉洗濯、總員在船、端艇航走リース、夜映画會	
五	水	半船半日宛自由上陸	船長出港挨拶
六	木	午前出港	

復航概況

サイパン一〇夕

昭和十六年三月六日海王丸ノ編隊ヲ解キ、午前海王丸ノ出港ヲ見送り、午後本船
 投錨シ、ロタニ向フ。折柄ノ北東ノ恒風ニ乗ジ、機関ヲ使用セス、直午ニ航走ニ移
 リ、減帆ニヨリテ速カラ加減シツ、ナニアン、アヤノ島ノ西側ヲ南下順走ス。
 三月七日早曉ロタ島南方十四哩ニ視認シ得テヨリ總帆ヲ展ジロタ島ニ近接ス。ロタ
 島西南端(タイピンコツト)附近ニ於テ島影ニヨリ風力衰弱シ、操縦意ノ如クナラ
 ザリシヲ以テ、錨地ヨリ西理ノ地矣ニ於テ絞帆機走ヲ以テ錨地ニ進航、午前十時ニ
 十分ロタ港ナルノ錨地ニ投錨セリ。

ロタ碇泊

月日曜行

三、七 金 着港船長公式訪問 半船宛自由見学上陸

三、八 土 生徒總員普通海員半船サバノ高原水源地方面行畢

三、九 日 半船宛半日自由見学上陸 官民代表招待午餐會、小学校児童本船見学

三、十 月 午前出港

口 夕 | 東京 (横滨至由)

二月十日正午官民小学校児童多数ノ見送りヲ受ケ口夕港ヲ抜錨横濱ニ向フ、其ノ航海概況左ノ如シ

(1) 恒風区域、出港当時ハ口夕島ノ山影ニテ恒風速漸セラレシ為天氣晴朗ナレド風力微弱風向区々ナリシヲ以テ機關ニヨリテ湾口ニ出ズルマ北東ノ恒風吹起セシカバ錨地ヨリニ程ノ地矣即チ口夕島西南端ハノ一岬南方一理ニ於テ機關ヲ停止シ、總帆ヲ展シ帆走ニ移ル、爾來恒風速漸定吹シカバ終始右舷詰開ヲ以テ北上シ、三月十四日ニハ早クモ小笠原父島南々西ニ。〇。理(北緯ニニ度、東經一四一度)ノ地矣ニ達ス。此ノ四日間ニ一日航走平均巨島一三六理時速平均五七節ナリ

(2) 日本近海 三月十四日午後ヨリ風力減ジ、風向区々、其ノ後無風状態トナリシモ十五日午後四時頃ヨリ偏北ノ軟風吹起シタレバ漸次速カラ増加シ得タリ、當時既ニ本邦附近ノ氣象ニ左右セラル、区域ニ入ル。其後三月十七日ニ至リ日本附近海上ニ横ハル一大不連続線ト七五〇。程ノ低氣圧ノ影響ヲ受ケ漸次氣圧降下シ、風位順転風力増加シ、雄風又ハ強風ヲ利用シ、極力北上スルコトヲ得タ

リ。斯クシテ三月十八日午前低氣圧飛達シテ示度七四回航トナリ、本船北方ニ。〇。理ヲ通過シ、更ニ低氣圧後ノ偏西強風ニ北上ラ続ケ、今日正午八丈島南西微南ニ。〇。理ノ地矣ニ達ス。其ノ後本船ノ南方一帯ニ互ル高圧部發生シ、猶本船ノ北方、本邦東部並ニ日本近海ノ廣範圍ニ五ル低圧部生ジタルタメ風位依然トシテ南西象限ニ在リシヲ以テ順走ヲ続ケ、二十一日早曉遠洲灘中央ニ達ス。其ノ頃ヨリ俄然強烈ナル偏西風吹起シ、順海流ト相和シ、展帆僅カニ四枚ニ減シタルモ蓋進ニ奮進ヲ続ケ今日正午過キ伊豆半島南端ヲ通過シ、遂ニ今日午後八時東京湾口ニ達シ、剣崎四理ノ地矣ニテ絞帆機走ニ移リ午後十時三十分根岸湾ニ抜錨假泊セリ。

此ノ区域ニ於テハ減帆等ニテ速カラ加減シタルモ尚帆走平均日程ニニ五理、時速五、ニ節ヲ得タリ。假泊地ニ於テ前期考査ヲ行ヒ、入港諸準備ヲ整ヘ二十五日早朝横濱ニ入港シ、税関其他ノ手續ヲ終了シ、今日午後零時二十五分東京品川錨地ニ抜錨シ以テ第二十三次航海ヲ終了セリ。

五、寄 港 地 事 績

本航海ノ寄港地ニ関シテハ特記スヘキ事項ナシ

六、學 習 記 事

一、概 説

本航海ハ第十一期生初期ノ航海ニシテ而モ航海日教比較的抄ナリシモ氣候快適ニシテ連日學習ニ適シ充分所期ノ效果ヲ收メ得タリ。猶研究生ニ対シテハ課題ヲ吳ヘ又必要ニ応ジ教授シ、航海実習シ主トシテ自発的勉學研究ヲナス様之ヲ指導セリ。

二、往 航

東京出帆後四日即チ二月十三日ヨリ學習ヲ開始シ別掲日課表ニヨリサイパン入港前日迄ニ週間十七時間ノ授業ヲ行ヒタリ。航海ノ初期海上浪高く船体ノ動搖甚大ナリシモ學習ニハ支障ヲ忝サズリキ

三、碇 泊 中

勉メテ寄港地ノ風物ニ接セシメ見學、講演、行事等ニヨリ生徒ノ智能ヲ啓発シ併セテ体位ノ向上ニ資シタリ。

四、復 航

口夕出港ノ翌日、即チ三月十一日ヨリ往航同様ノ日課ニ依リ約ニ週間十二時間ノ授業ヲ課セリ。而シテ三月二十日及二十二日ノ二日間ニ互リ第十一期生ノ前期考査ヲ行ヘリ

曜	科 目	担 任	午 前		担 任	科 目	担 任	午 後	
			自 九、〇、五	至 一、〇、一、〇				自 一、〇、二、〇、一	至 一、二、二、五
日	運 用 術	一 等 運 転 士	測 悉 学	次 席 等 運 転 士	技 業	日 出 港	船 長 実 習	武 道	
月	英 語	二 等 運 転 士	機 関 術	機 関 長	技 業	夕 出 港	船 長 実 習	武 道	
火	操 練	練	氣 象	次 席 三 等 運 転 士	技 業	夕 出 港	船 長 実 習	武 道	
水	航 海 術	三 等 運 転 士	船 舶 衛 生	船 医	技 業	夕 出 港	船 長 実 習	武 道	
金	教 学	一 等 機 関 士	無 線	首 席 通 信 士	技 業	夕 出 港	船 長 実 習	武 道	
土	洗 濯	大	掃 除		技 業	夕 出 港	船 長 実 習	武 道	

五、学 習 項 目

○ 運 用 術 (四時間)

通航法、帆船運用法、汽船ノ構造設備、汽船運用、出入及航海

○ 航海術 (六時間)

シングルジョンソン法、ダブルジョンソン法、自差算法、索星法、レックキト重直、危険角法、須式八型軌輪羅針儀

○ 英語 (四時間)

Order Book Standing Rules Night Order Abstract from Night order etc Abstract from Pilot Books.

○ 応用力學 (三時間)

靜力学、質点ノ力学、剛体動力

○ 海上気象学 (二時間)

颱風、旋風、北太平洋ノ低気圧等庄線型式天気図

○ 機関学 (三時間)

内燃機関及製作所名

○ 船舶衛生 (三時間)

神経系統及視覚器、感覚器、運動器、内分泌腺系統、海員生活ノ特異狀態、海員疾病、気象卜衛生

○ 無線電信 (三時間)

無線電信モジュール受信、方向探知機

○ 海運 (一時間)

内南洋事情

○ 航海実習

天測 全航海ヲ通ジ極力天施セリ、天候ニ恵マレ航海日數僅少ニ比シ割合ニ天測回數多ク生徒ノ努力ト共ニ進歩ノ度顯著ナリ
天測回數次ノ如シ

天測種類	第一分隊	第二分隊	第三分隊
太陽午前觀測	一五回	一六回	一一回
太陽正午及近午觀測	六回	一〇回	六回
太陽午後觀測	六回	五回	七回

恒	遊	星	及	月	観	測
合	計					
				四	五	四
				回	回	回
				三	三	二
				六	六	八
				回	回	回

- (四) 自差測定、副直生徒並ニ富直生徒ヲシテ当直ノ余暇朝夕太陽ニ依リ又ハ夜間恒星ニ依リ機念アル毎ニ測定セシメタリ
- (五) 索星 夜間當直ノ余暇ニ之ヲ行ハシム
- (六) 測深 沿岸航海中ニ之ヲ行フ
- (七) 沿岸航法 陸岸、島嶼ヲ利用シ極力之ヲ行フ
- (八) 磁輪羅針儀ノ運転及方向探知機ニ依ル測定等実施ス
- (九) 信号 僚船海王丸ト編隊マ型ノ時ハ兩船間ニ於テ実施シ、其他ノ場合ハ当直余暇並ニ航海実習時間ニ課シタリ

○ 講演

- 一 南洋サイパン事情 サイパン支廳長 山口勇三郎氏
- 一 從軍体験談 日本美術学校講師 高橋 亮 氏

○ 見學

- 一 南洋興産株式会社サイパン製糖工場
- 一 熱帯産業研究所サイパン支所
- 一 サイパン公学校
- 一 ロタ島サバト高泉及水源地
- 一 南洋興産磷礦採掘状況

七 機関状態

「東京」 「サイパン」

二月十日午前十一時半東京出港、今日午後四時二十分主機関ヲ停止シ帆走ニ移ル

○二月二十七日午後一時二十四分機走ヲ開始、今日午後二時十五分「サイパン」ニ到着セリ。

「サイパン」 「ロタ」

三月六日午後機関ハ用意ノミニテ「サイパン」ヲ出帆、翌七日午前九時二十分

分機関ヲ始動シ全十時二十分「ロタ」ニ入港ス

「ロタ」 「横濱」

三月十日正午「ロタ」出港今日午後零時十五分ヨリ帆走ヲ開始ス、○三月二十一日午後八時。分機走ヲ開始シ、今日午後一時三十分振岸假泊、○三月二十四日午

向五時二十五分錨地ヲ終シ今日午向六時十五分横濱錨地假泊、三月二十五日
午前六時四十五分横濱ニ到着ス

「横 濱」 — 「東 京」

三月二十五日午前十時三十五分横濱ヲ出港機走ノ儘東京ニ向ヒ今日午向六時二十
五分東京定錨地ニ歸着セリ。○今次航海ハ機因使用時間比較的尠カリシモ定期檢
査工事ノ後ニテニ、三不調ノ虞アリテ適宜調整ヲ行ヒ良好ナル状態ヲ保持シタリ。
○新設冷凍機ハ特ニ電機關係ニ於テ不良ヲ所アリシモ逐次修理ヲ行ヒタル結果、
糧食ノ良好ナル保持ニハ支障ナカリキ。

八、衛生 狀 態

氣象、往航ノ當初一週間ハ曇天ノ日多ク風浪高カリシモ其ノ後ハ概メテ晴天平穩ノ
日続キ氣温ハ出航三日目ヨリ早クモ上昇ヲ迎リ一週後ハ既ニ本格的氣温トナリ濕度
亦之ニ伴ヒ増加シ十日ヲ經過シテ断然熱帯氣候ヲ呈スルニ至レリ爾後始終順調ノ航
海ヲ続ケ二月二十七日廿イパン島ニ到着セリ此間氣温最高ニ九五度、最低一〇、五度
平均二〇、〇度ナリ

復航ハ三月八日廿イパン島錨地同月十日口夕島出帆爾來好晴ノ天氣続キ恒風吹続シ時
ニ驟雨ノ襲来アリ概シテ快適ノ氣候ニ恵マレ三月二十五日一同元氣旺盛東京ニ歸着
セリ。復航中ノ氣温最高三〇、〇度最低一七、〇度平均二三、五度ナリ連康狀態概シテ良
好ナリ生徒中東重炎、急性肺炎、支重炎腹壁瘰癧各一名普通船員中肛門膿瘍腸加答
兒各一名ヲ発生シ何レモ順調ニ経過セシカ獨肺炎ハ尙輕快ニ向ハス引續キ帶瘰中十
リ體重ハ左表ノ如ク一般ニ著シキ増減ヲ示サズ

一、平均體重比較表

部 別	員 數	品川出帆時一人平均	廿イパン入港時一人平均	品川歸着時一人平均	増 減
生 徒	五三	六一、四六八	五九、九八八	五九、九二五	〇、五四三 減
普 通 船 員	三八	五四、〇五四	五四、四三二	五四、五五四	〇、五〇〇 増
平 均	九一	五八、四二〇	五七、四八四	五七、六五九	〇、七六一 減

二、體重増減員數比較表

部 別	員 數	廿イパン入港時		品川歸着時		増 減
		增加人員	減量人員	增加人員	減量人員	
生 徒	五三	二一	一一	二一	二四	八

船員通	
計	三八
	二四
	七
	一八
	二四
	九
	五

寄港地衛生状態、サイパン島口夕島何レモ衛生状態良好ニシテ傳染病風土病ノ特記
 スベキモノナシ、サレド上陸ノ際ハ水筒辨當ヲ携帶セシメ外部ノ飲食ニ関シ嚴重ニ
 警戒ヲ拂ハシメシヲ以テ特別不良ノ影響ヲ蒙リタル事與ナシ氣象ハ恰モ乾燥期ニ当
 リシヲ以テ好天続キ湿度比較的依ク暑熱最高三一、五ニ達セシモ日々恒風ニ惠マレ
 涼キ易ク経過セリ保健ニ關スル施設 一、例ニ依リ出帆前航海ノ適否ヲ決定スル身
 体検査ヲ施行セリ、ニ、今回新ニ「富士」塩化メナール式冷凍機械五馬力ニ基テ据
 附ラレ之ニヨリ肉類及野菜ハ常ニ適當ニ冷却保持セラレタリ、三、今回生徒ニ健康
 増進ノ目的ヲ以テ全航海ヲ通シ栄養強壯劑拓力素ヲ毎朝味噌汁ニ溶解服用セシメタ
 リソノ結果未ダ遽ニ效果ヲ断定シ能ハサルモ概シテ抵抗力増強瘧病率減少体重増加
 等保健上相當効力アリシモノト認メタリ
 給養ノ狀況、主食ハ胚芽米副食物ハ可及的耐久性ニ富ムモノヲ搭載シ始終新設冷凍機
 械ニ依リ理想的ニ冷藏セシヲ以テ從來ノ如ク罐詰類ヲ使用スル等ノコトナク日常
 比較的新鮮ナモノヲ供給スルコトヲ得兼養保続上遺憾ノ矣ヲ認メサリキ

九、通信状態

全航海ヲ通シ長波短波受信機共故障ナク常ニ完全ナル状態ヲ保持シ最良ノ能率ヲ發揮
 セリ

一〇、総括

本航海ノ成績ヲ要約スレバ左ノ如シ

一、航海 全航海ヲ通シ風候極メテ順調ナリシト船底清掃直台ナリシトニヨリ常
 ニ高速力ヲ保持シ得、往復共早着トナリ機関使用時間極メテ少ク往航
 卅ノ崎ヨリ帆走トナシ、復航劍崎迄帆走シ得タル記録ヲ得タリ

二、練習 航海期間比較的短期間ナリシモ氣象状況練習航海ニ適シ時ニハ僚船海
 壬丸ト編隊々形ヲ整へ訓練ヲ実施シ得兼員ノ協力一致ト相俟テ練習ノ
 効果ヲ挙げ得タリト信ス

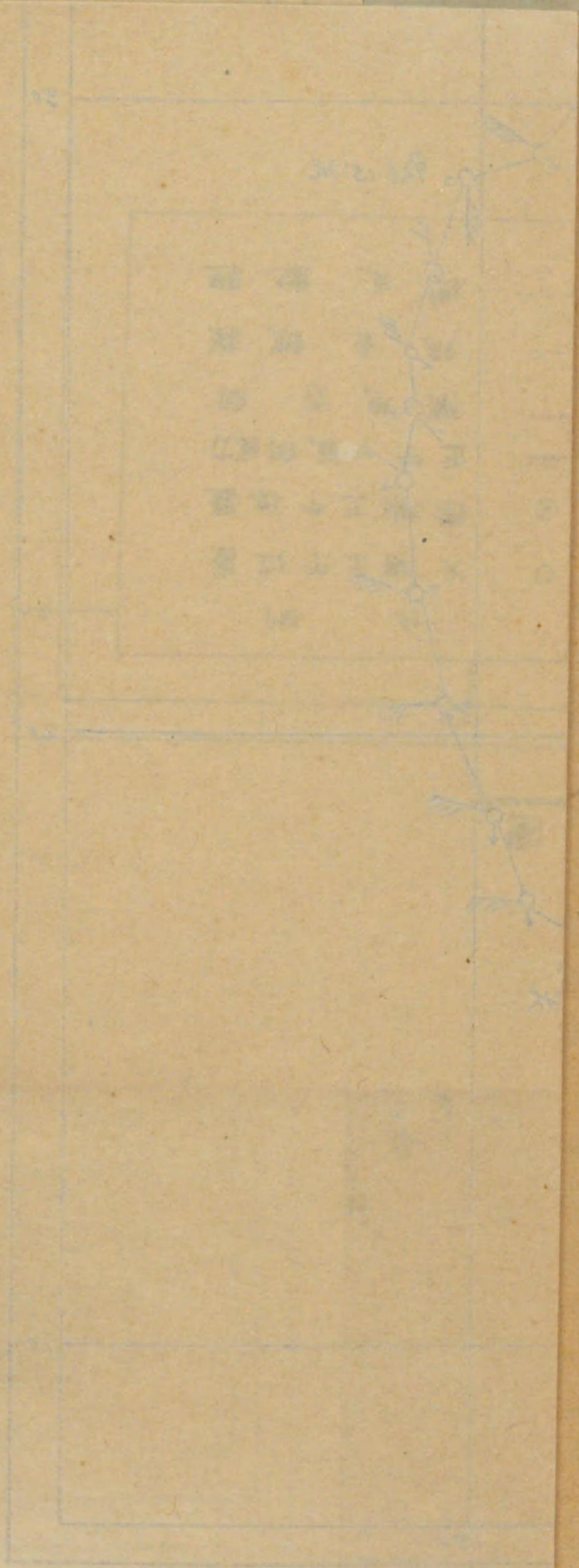
三、機関状態 常ニ良好、出入港ノミ使用シ機走時間僅ニ十二時〇二分機走距離九五
 哩ニ過ギズ

四、衛生状態 一般ニ良好ナリ。
 五、通信状態 常ニ良好充分其ノ性能ヲ完セリ。
 六、次ニ本航海ノ主要事項ノ記録ヲ添付ス

第二十三次航海記録

事項	往		復	
	記録	月日時	記録	月日時
氣圧最高	七六九・〇	二、一、二〇	七六六・〇	三、一、三、八
氣圧最低	七五八・〇	二、一、三、八	七五四・〇	三、一、八、五
氣温最高	二九・五	二、二、五、二	三〇・〇	三、一、五、二
氣温最低	七・〇	二、一、〇、六	一七・〇	三、一、九、二〇
水温最高	二五・〇	二、二、六、二	二四・〇	三、一、〇、一六
水温最低	一〇・〇	二、一、〇、六	一二・〇	三、二、〇、四
最強風	南四七	二、一、三、四	西南四七	三、一、八、八
最大波浪	大七	二、一、三、四	七	三、一、八、八
位置	東北 一四三二度		東北 一四三二度	

最大傾斜	左右合計五度	二、一、三、四	東北 一四三二度	二六度	三、一、八、五	東北 一四三二度
暴風雨	一	二、一、三、四	東北 一四三二度	一	三、一、八、五	東北 一四三二度
漂回回数	ナシ		東北 一四三二度	ナシ		東北 一四三二度
帆走最大日程	二〇九哩	二、一、三、一、二	東北 一四三二度	一八七哩	三、一、八、一、二	東北 一四三二度
帆走最大時速	一〇節	二、一、三、一、七	東北 一四三二度	九節	三、一、七、一、五	東北 一四三二度
總員呼集	ナシ		東北 一四三二度	ナシ		東北 一四三二度
事故	ナシ		東北 一四三二度	ナシ		東北 一四三二度



練習船日本丸第二十三次航海航跡圖



— 帆走航程
 --- 機走航程



航海統計
 東京—サパン—ロタ—横浜—東京
 航海時間 29日—13時—55分
 実測航程 3247 哩
 平均速力 4.58

内訳
 帆走時間 29日—01時—53分
 実測航程 3152 哩
 平均速力 4.52
 機走時間 00—12時—02分
 実測航程 95 哩
 平均速力 8.44

日本丸第二十四次航海報告

自昭和十六年五月二十四日
至昭和十六年九月五日

港名	入港月日	出港月日
東京	九、五	九、五
横濱	九、五	九、五
佐世保	八、三六	八、三〇
上海	八、一八	八、二五
厦門	八、一	八、八
基隆	七、二五	七、二五
アソカウル	六、二四	六、二四
東京	一	五、二四

各港着発月日表

昭和十六年

一	乘員名簿	三頁
二	諸表	四〇
(A)	各港着念日時表	四〇
(B)	航海摘要	四一
(C)	各港出帆現狀表	四五
(D)	航海一覽表	四六
三	訓練線表	五三
四	航泊記事	五五
五	寄港地事情	六八
六	學習記事	六八
七	機関狀態	七五
八	衛生狀態	七七
九	通信狀態	八〇
一〇	總括航海圖	八三

一 乘員名簿
職 員 (一四名)

船長 名古屋松太郎

一等運転士 柏野榮一 次席一等運転士 長倉徳行 二等運転士 今村茂一郎
 二等運転士 宮西 登 三等運転士 金山 弘 四等運転士 細野 匡 男
 機関長 枝津安信 一等機関士 田崎三郎 二等機関士 土屋久太郎
 事務長 外岡常彦
 船醫 松井篤二
 首席通信士 松行利友 次席通信士 兩角 稜 男
 使 兼 若 (一名)

商大學生 喜浦義男
 生 徒 (四八名)

富山商船學校 (六名)
 藤森幸作 堀江榮三 梶谷甚一郎 湊 義雄 中谷吉次 橋 史二
 島根商船學校 (五名)

C. 各港出港現状表

港名	出港年月日	職員	生徒	普通海員	便乘者	合計	吃前部	吃後部	排水噸數	飲料水
東京	一六五三四	一四名	四八名	四一名	一名	一〇四名	七米七五	六・一〇	三六五〇	四七一噸
アングール	一六六三四	一四名	四八名	四一名	一名	一〇四名	五・六〇	六・〇〇	三五五〇	三七三五
基隆	一六七三五	一四名	四六名	四一名	一名	一〇二名	五・八〇	五・八五	三五七〇	四六六五
厦門	一六八八	一四名	四六名	四一名	一名	一〇二名	五・七五	五・八〇	三五三〇	四一六〇
上海	一六八三五	一四名	四六名	四一名	一名	一〇二名	五・九〇	五・九〇	三五六〇	四三〇〇
佐世保	一六八三〇	一四名	四六名	四一名	一名	一〇二名	五・七五	五・七五	三五一五	四一〇〇
横濱	一六九、五	一四名	四六名	四一名	一名	一〇二名	五・七〇	五・七〇	三四七五	三八六五

燃料油	炊事用石炭	固定バラスト	海水バラスト	糧食	備考
一四〇、三三	四五、〇〇	六五九、八	一	二〇、〇〇	倉庫品其他 一六、七アリ
一三、七〇二	四〇、〇〇	六五九、八	一	一五、〇〇	全上
一〇、二〇三	三五、〇〇	六五九、八	一	一二、〇〇	全上
九三、九〇	三三、〇〇	六五九、八	一	九、九〇	全上
八八、〇二	三〇、〇〇	六五九、八	一	七、四〇	全上
七七、二九	二八、〇〇	六五九、八	一	五、八〇	全上
六三、七七	二五、〇〇	六五九、八	一	三、五〇	全上

(D) 航海一覽表

日	正午位置		航時	針路	航程	風向	風力	天候	氣圧	氣温	水温	一日主要		潮流	
	緯度	経度										風向	風力		
24	35-35N	139-48E	* 0-40	北定	4	East	1	bc	762.0	22.0	16.0	East	3	木	明
25	34-14N	140-04E	* 5-50 17-49	北定 331E	5.6 3.5	South	5	od	957.5	21.0	20.0	South	5	WKE 30.7	
26	34-04N	141-09E	23-56	579E	5.5	Calm	0	0	957.0	21.0	20.0	SE	2	木	明
27	33-43N	142-43E	23-51	575E	8.1	SSW	6	bc	950.5	22.0	20.0	SSW	6	木	明

28	32-56N	143-55E	23-57	552E	77	NW	1	7	7544	19.0	19.0	SW	4	"	"	8.4
29	32-41N	145-32E	23-54	580E	84	SW	2	0	762.0	21.0	18.0	SW	2	N11E	B	8.0
30	32-11N	145-45E	23-59	521E	32	NE	3	7	760.0	19.0	18.0	NE	2	K	AP	
31	31-11N	145-29E	24-03	513W	61	ENE	2	7	765.0	20.5	17.0	East	2	"	"	
*R	30-13N	144-26E	24-02	543W	80	S1E	4	6	758.0	22.0	18.0	South	4	"	"	
2	29-36N	143-21E	24-05	558W	66	SW	5	6C	760.0	23.0	18.0	SW	4	564W	11	
3	28-23N	144-18E	23-57	534E	88	NNE	2	7	759.5	21.5	20.0	NNE	2	K	OH	
4	27-06N	144-18E	24-01	South	77	SE	2	0	759.5	25.5	23.0	SE	2	530E	29	
5	26-40N	143-59E	24-00	533W	31	South	1	0	759.5	26.0	22.0	WSW	1	528W	5.7	
6	26-22N	144-06E	23-59	549E	19	"	2	6C	758.4	28.0	23.0	South	3	59W	6.1	
7	25-37N	144-53E	23-58	543E	62	SSW	4	6C	759.0	28.0	24.0	"	3	526E	21.0	
8	25-20N	143-55E	24-05	572W	55	South	3	6C	761.0	28.0	24.0	"	3	54W	12.1	
9	22-59N	143-18E	7-30	513W	*138	"	2	6	763.0	32.5	24.5	"	2	59E	11.2	
10	21-07N	142-25E	*11-00 13-02	524W	*95 27	E1S	2	6	764.5	31.0	26.0	East	2	West	8.4	

11	20-04N	141-55E	24-02	524W	69	"	2	6C	763.0	31.5	26.5	E6E	2	"	"	0.9
12	19-30N	141-00E	24-04	557W	62	S1E	2	6C	761.5	31.0	26.0	SSE	1	S13W	4.1	
13	19-03N	140-31E	24-03	545W	39	SE	2	6C	760.5	31.5	26.0	SE	2	524W	14.3	
14	18-37N	139-49E	24-03	560W	52	SE/E	2	6	762.5	32.0	26.0	SE/E	2	584W	12.3	
15	17-45W	138-49E	24-03	544W	73	SE	2	6	762.5	31.5	26.0	SE	2	N63W	16.4	
16	17-09N	138-16E	24-03	541W	48	E1N	3	6	761.0	31.0	26.0	E1N	3	M29W	24.0	
17	16-02N	138-02E	24-01	511W	69	East	3	6	760.0	31.0	26.0	East	3	N32W	7.1	
18	15-09N	137-40E	24-02	520W	62	East	2	6C	759.0	31.5	28.0	East	2	528W	10.2	
19	13-40N	136-58E	24-03	526W	73	E1S	2	6C	759.0	30.5	28.0	E1S	3	N32W	12.9	
20	12-23N	136-06E	24-03	533W	92	SE/E	4	6C	757.0	31.0	29.0	SE	3	N46W	23.0	
21	11-40N	135-08E	24-04	553W	71	"	3	6	758.5	32.0	27.0	SE/E	2	N41W	13.4	
22	10-41N	134-42E	24-02	523W	64	ESE	3	6	759.0	31.0	28.0	ESE	2	583W	10.9	
23	7-57N	134-19E	*15-58 8-00	57W	*149 16	NE	2	0	758.5	28.5	26.0	W1W	2	K	OH	
24	7-04	"	*4-50 15-10	Var	*45 35	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

自 アニガワル 至 基隆

大月	25	7-19N	133-43E	*10-40 7-10	N95W	*60 29	SE/NE	5	bc	958.0	29.0	26.0	S/W	6	N29E	24.0
	26	8-24N	131-09E	24-08	N56W	115	"	6	0	959.0	29.5	28.0	South	6	S83E	26.0
	27	8-42N	150-20E	24-03	N69W	50	SE/S	5	K	958.0	31.0	26.5	SE/S	4	S14W	8.3
	28	8-11N	129-01E	24-06	S68W	84	SE/S	3	bc	959.0	30.5	26.0	SE/S	3	N79W	25.3
	29	7-57N	128-03E	24-04	S76W	59	SW	1	bc	959.5	33.0	28.0	South	1	S19W	15.5
	30	5-13N	125-12E	*22-15 1-57	*定	*233 8	S/E	2	ル	959.5	29.5	26.5	S/E	2	S25W	8.7
七月	1	5-11N	124-45E	24-00	S86W	27	SSW	1	0	959.5	29.0	26.5	SSW	1	S50E	23.0
	2	5-15W	124-39E	24-03	N64W	9	WSW	2	ル	960.0	26.0	26.0	WSW	2	S50E	22.0
	3	6-05W	123-16E	*1-00 17-04	N58W	*60 35	SE/S	5	bc	958.0	29.0	26.0	SE/S	4	S48E	30.2
	4	6-49W	122-12E	*4-05 20-00	N42W	*30 51	S/E	4	0	959.5	30.5	26.0	S/E	4	N81E	24.1
	5	7-18N	120-48E	*4-25 19-40	KX N71W	*38 32	S/W	2	bc	960.0	29.0	26.5	S/W	2	S58W	8.6
	6	7-20N	119-38E	24-05	N88W	70	S/E	3	bc	961.0	30.5	27.0	S/E	3	S48E	12.0
	7	7-34N	118-28E	24-05	N93W	71	SE	3	bc	960.0	30.5	27.0	SE	3	N50E	14.1

復 帆 自 基隆 至 慶 門

8	8-15N	117-00E	*3-07 21-00	K69W 定	*30 69	S/E	2	b	960.0	34.5	28.0	SE	2	N63E	6.7	
9	11-30N	117-49E	*23-56	*定	*218	SW	1	bc	960.5	32.5	28.0	SW	1	S41W	12.0	
10	11-49N	117-18E	*20-30 3-33	N9W	*194 7	SSW	2	bc	960.5	33.0	27.0	SW	1	S91E	9.2	
11	18-18N	118-40E	*23-55	N21E	*224	WSW	1	b	960.0	34.0	27.0	WSW	1	S26E	6.7	
12	20-26W	120-07E	*8-52 15-25	N32E	*99 73	W/S	4	0	959.5	28.0	26.5	West	4	N19E	9.5	
13	22-52N	121-41E	23-50	*定	172	N/E	1	bc	953.5	32.0	26.5	N/E	1	N4E	5.4	
14	23-52W	121-53E	24-00	N11E	61	NE	1	0	952.5	30.0	26.0	NE	1	N25E	15.0	
15	25-12W	121-45E	*9-50 14-10	*定	*96 19	West	3	0	953.5	28.0	26.0	West	3	N14E	59.0	
16			*1-05	*定	*4											明

28	26-19N	120-54E	24-00	N30W	30	WSW	4	bc	956.5	29.5	26.0	S'W	4	N64E	20
29	26-29N	121-05E	24-00	N39E	16	WSW	5	bc	957.0	29.5	29.0	WSW	5	N76E	16.3
30	25-45N	121-52E	24-00	S44E	61	N'IS	5	bc	957.0	29.5	26.0	N'IS	4	N55E	15.4
31	24-45N	119-34E	*20-30 3-30	N'W	*142 6	SW	3	bc	959.0	29.5	26.5	SW	3	S88E	28.0
八月	厦	門	*12-25	-11-	*91	-	-	-	-	-	-	-	-	木	明

自 厦 門 至 上 海

8	24-20N	118-14E	*1-20 -30	N'W	*10 2	West	1	bc	952.0	32.0	26.0	S'W	2	木	明
9	24-52N	119-34E	24-00	-11-	86	SW	3	K	953.0	29.0	29.0	South	2	N29E	18
10	25-49N	120-50E	24-00	N51E	88	SW'8	2	bc	954.5	29.5	29.0	SW'IS	2	N94E	26.0
11	26-23N	121-09E	24-00	N26E	40	NW	1	bc	955.0	33.0	29.0	Calm	2	N55E	12.0
12	26-55N	121-35E	24-00	N36E	40	SE/E	1	b	955.5	32.0	26.0	SE/E	1	N24E	8.8
13	27-15N	121-56E	24-00	N48E	28	N/E	1	08	954.5	31.0	26.5	NE/E	2	N61W	4.1
14	27-29N	122-03E	24-00	N25E	15	N'W'4	3	bc	952.0	29.0	26.0	North	3	N60W	2.1

15	27-48N	122-16E	24-00	N3/E	22	SSW	2	b	952.0	30.0	26.0	SSW	2	N60E	4.1
16	28-51N	122-52E	24-00	N27E	71	SW	2	b	953.0	29.0	29.0	SW	2	S69E	7.6
17	30-37N	122-23E	*9-30 14-30	N44 N'W	*76 35	South	2	b	955.5	30.5	26.0	South	2	S88E	5.8
18	31-19N	121-33E	*9-20	-11-	*14	SE	2	2	956.0	31.0	29.0	SE	2	木	明
19	31-19N	121-33E	*1-45	-11-	*8	-	-	-	-	-	-	-	-	木	明

自 上 海 至 佐 世 保

26	31-11N	124-52E	*24-0	N'W	*195	S'W	4	0	955.0	29.5	26.0	S'W	4	S52E	3
27	31-41N	127-19E	*14-45 9-15	N76E	*103 28	NE	4	0	954.0	24.0	25.0	NE	5	S44E	10.0
28	佐 世 保	佐 世 保	*22-40	N'W	*156	-	-	-	-	-	-	-	-	木	明

自 佐 世 保 至 橫 浜

30	33-01N	129-31E	*1-55	N'W	*15	SE	2	2	958.0	26.0	24.0	S'W	4	木	明
31	32-08N	129-53E	*6-30 17-30	-11-	*33 34	SW'W	5	0	959.0	27.0	24.5	SW'W	4	-11-	-
29	30-56N	131-01E	*5-25 18-35	-11-	*44 72	NW'W	3	b	961.0	29.0	25.0	NW'W	3	-11-	-

2	31-25N 131-48E	*0-25 23-35	N54E	*3 4.7	NE	1	bc	960.0	28.5	25.0	NE	1	N82E	9.0
3	32-50N 135-12E	*24-00	N64E	*193	East	4	D	760.0	29.0	25.0	East	4	N93E	31.0
4	34-11N 138-00E	*24-00	N60E	*162	E/N	3	D	759.0	29.0	25.0	E/N	3	West	14.9
5		*9-05	K 7E	*126										

目 横 深 至 表 尺

JUR	表	表	*1-50	K 7E	*12	WW	3	0	956.0	21.0	25.0	WW	3	
-----	---	---	-------	------	-----	----	---	---	-------	------	------	----	---	--

三 訓 練 表

年月日	訓練種類	開始終了時刻	摘	要
昭和十六年 五月二十五日 (日)	上手廻操練	午前九。五 九。四。〇	左舷詰用ヲ右舷詰用トナス 四、速力四節	左舷詰用ヲ右舷詰用トナス、當時風位南南東、風力四、速力四節
五月二十九日 (水)	端艇操練	午前九。〇 九。五。〇	予告ナク発令シ總端艇ヲ吊出シ専具ノ整備検査ヲ以テ終ル 本操練ハ船体動揺中端艇ノ操作ヲ主眼トス	予告ナク発令シ總端艇ヲ吊出シ専具ノ整備検査ヲ以テ終ル 本操練ハ船体動揺中端艇ノ操作ヲ主眼トス

六月二日 (水)	端艇操練	午前八。五八 九。一。五	予告ナク発令シ、人員兵等、専具整備後第三、五、六号艇降下航走セシム、本操練ハ海面平穩ナラザル時ノ端艇上下ヲ主眼トス	予告ナク発令シ、人員兵等、専具整備後第三、五、六号艇降下航走セシム、本操練ハ海面平穩ナラザル時ノ端艇上下ヲ主眼トス
六月八日 (水)	防大部署操練	午前八。五五 九。三。〇	火災場ヲ操艇機室ト假定ス、ポンプ、通風、遮断、其他専具ノ整備後兵隊以テ操練ヲ終ル	火災場ヲ操艇機室ト假定ス、ポンプ、通風、遮断、其他専具ノ整備後兵隊以テ操練ヲ終ル
七月一日 (水)	防空部署操練	午前九。〇〇 九。五。〇	防空部署ノ説明後各配置ニ付カシメ防火、防水、防毒方法ノ実施船長兵隊終ツテ復旧後燈火管制ニ付テノ説明ヲナシ操練ヲ終ル	防空部署ノ説明後各配置ニ付カシメ防火、防水、防毒方法ノ実施船長兵隊終ツテ復旧後燈火管制ニ付テノ説明ヲナシ操練ヲ終ル
七月二日 (日)	操艇操練	午前八。四五 九。二。〇	基隆破泊中海ノ記念日行事トシテ行フ	基隆破泊中海ノ記念日行事トシテ行フ
七月三日 (水)	防火部署操練	午前八。五五 九。二。〇	第一船艙ヲ火災場ト想定シ各ポンプノ整備、通風遮断等実施シ専具納メテ操練ヲ終ル	第一船艙ヲ火災場ト想定シ各ポンプノ整備、通風遮断等実施シ専具納メテ操練ヲ終ル
八月二日	溺者救助操練	午前八。五五 九。四。五	予告ナク発令シ本船ヲ脚蹴シ第五号艇ヲ救命艇トシテ即下位イテカ一、二号艇ヲ増援セシメ人命救助後船尾ニテ本船ヲ救回廻リ各艇ヲ以テ救援校針ス	予告ナク発令シ本船ヲ脚蹴シ第五号艇ヲ救命艇トシテ即下位イテカ一、二号艇ヲ増援セシメ人命救助後船尾ニテ本船ヲ救回廻リ各艇ヲ以テ救援校針ス

八月二十六日 (火)	瑞艇操練	午前八五五 九四五	興亞学生勤勞報國隊員一八名参加ス、予告ナク発令 總艇ヲ吊出シ降下準備完了後復旧要具納メテ操練ヲ 終ル
---------------	------	--------------	--

四、航泊記事

往航概況

自東京—至—アングウル

昭和十六年五月二十四日関口航海練習所長、海軍省徳永教育局長等ノ来船激励ヲ受ケ午前十一時二十分芝浦岸壁ヲ解纜アングウルニ向ケ第二十四次ノ航海ノ途ニ上ル

関口航海練習所長訓示要旨

去ル昭和十四年五月二十二日諸君又ハ諸君ノ代表者ハ宮城前廣場ニ於テ畏クモ天皇陛下ノ御親臨ヲ賜リマシタ、其ノ上時ノ文部大臣ハ式後宮中ニ召サレ青少年学徒ニ対スル優渥ナル勅語ヲ拜受致シマシタ、今日ハ記念日ニシテ然カモ青年学校実地十五周年ニ當リマスノデ全國青年学校代表者三万五千餘人一昨年ト同様宮城前ニ

於テ御親臨賜ツタノデアリマス、練習船ニ於テモ行事が行ハレタト思ヒマスガ諸君ハ其ノ當時ヲ思ヒ起シテ感激ヲ新ニ益々修練ヲ積ム様努力致サネバナラヌノデアリマス、惜テ今回諸君ガ第二回目ノ練習航海ノ途ニ上ルニ當リ一言述べテ餞ト致シタイト思ヒマス、時局ハ愈々緊迫ノ度ヲ加ヘテ明日ヲ予測スルコトサヘ出来ヌ時帝國海運ノ諸君ニ期待スル所洵ニ大ナルモノガアリマス、諸君ハ益々真剣味ヲ以テ效果アル最後ノ練習航海ヲ完了センコトヲ望ンデ止マヌ次第デアリマス、前航海ノ発途ニ際シテ話シタコトヲ思ヒ出シテ練習船最後ノ航海ニ立派ナル海員トシテノ徳性ヲ修得サレンコトヲ希望シマス、今航海ノ寄港地ハ時局ニ関係シナイモノハナク寄港地ノ事情ヲ克ク見聞シ現地ノ認識ヲ深メ技能ノ鍛磨ト相俟ツテ両方面ヲ良ク修練シテ一同揃ツテ元氣ニ再ビ無事歸還サレンコトヲ祈ツテ已マヌ次第デアリマス、終リ

徳永海軍省教育局長訓示要旨

諸子ガ今日晴レノ練習遠洋航海ノ壯途ニヒルニ際シ私ハ衷心ヨリ御悦ビ申上マス、諸子ハ本日愈々海員生活ノ第一歩ヲ踏ミ出スノデアリマス、凡テ始メガ一番大切デアリマス、諸子ノ一生ヲ通ジテ之ノ大切ナ際ニ一言希望ヲ述べテ見タイト思ヒマス、諸子ハ一生ヲ通ジテ帝國海運界ノ為メニ盡ス身ナレバ自今ト言フモノヲ無クシテ

カカラネバナラヌ、自分ヲ無クシテ海ノ職域ヲ通ジテ國家ニ御奉公スルト言フ觀念ヲ失シテ忘レズ物言ヲ行ハバ間違ガナイ私ヲ捨テ、公ニ盡スコトガ甚ク大切デアリマス。殊ニ諸子ハ海軍豫備員デアル、海軍ニ於テハ之ノ戚私奉公ノ精神ハ無クテハナラヌ洵ニ大切ナモノデアリマス、之ノ心掛ケテ常ニ忘レズマツテ貰ヒタイ、之ダケ希望スル次第デス、今次航海ハ暑イ季節ニ向ツテ而モ暑イ地方ニ行クノデスカラ相害苦シイ事デアル事ト思ヒマスが充分身体ヲ大切ニ練習航海ノ目的ヲ達セラレン事ヲ祈リマス。

終り

④ 日本近海 東京出港後僚船海王丸ト舳艫相銜シテ東京湾ヲ南下シ、午後五時五十分野島燈台ノ南西微南八哩ノ地矣ニ於テ偏東ノ南風ヲ得タレバ海王丸ト併航、帆走ヲ開始ス、翌二十五日ヨリ六月一日迄依氣圧傾マトシテ本船北方ヲ通過シ且ツ不連続線ノ影響ニ依リ風位偏南多ク、南下極メテ困難ニシテ縫航教次ニ及ブ、連日霖雨ニシテ濕潤ヲ極メ濃霧漸ク逸散シ天候快晴ニナリタレドモ風位依然トシテ偏南ニ膠着シタリ、○斯クテ六月八日北緯ニ五度東至一四四度ノ地矣ニ達スルマ無風状態トナリシカバ午七時三十分機走ヲ開始シ南下スルコトニ三三哩偏東風吹起シタレバ九日午十一時帆走ニ復ス。

⑤ 恒風帯 機走ニヨリ恒風帯ニ入りタルモ偏南東風ニ終始シ針路意ノ如クナラズ、六月十六日漸ク偏東トナリシモ、風力微弱ナリ、六月二十日北緯ニ一度東至一三六度ニ達セシ頃附近依緯度ニ現レタル不連続線ノ影響ヲ受ケ風位再ビ偏東トナリ、常ニ詰開ニテ帆走ス、六月ニ二日風力頗ニ衰弱シタレバ午後八時ヨリ機走トナシ、南下一九四哩、六月ニ三日午後五時アングウル島北西三〇哩ノ地矣ニテ機関ヲ停止シ、折柄ノ西南西ノ和風ニ帆走ニテアングウル島ニ向ヒ六月ニ四日午前八時アングウル島北東港ニ入港漂泊セリ。之ヲ要スルニ日本近海ハ殆ンド偏南風ニ南下ヲ阻止サレ縫航教次ニ及ビタルト恒風帯ニ於テハ風位偏南東ト風力微弱ノ為メニ日強ノ機走ヲ餘儀ナクサレ猶且ツ五日間ノ延着トナレリ。

アングウル記事

アングウルハ西港碇泊が便ナルモ當時西ノ風浪ノタメ危険ナルニツキ風下ニ当ル北東港ニ漂泊セリ。午前午右半航直宛上陸南洋拓植会社アングウル鉱業所ヲ見学シ同日午後六時二十分佛印西貢ニ向ケ出港ス

く 自アングウル——至基隆

(イ) アンガウルー ミンダオ間、六月二十四日午後六時二十分、アンガウル出港
 當時ハ西南風強吹シタリシカバ機走ニテ六十哩西進シ、パラオ諸島安全トナリ
 テヨリ帆走ヲ開始ス、六月二十六日七時四時ノ船風本船ノ北西至近ニアリ、スコ
 ール繁ク南々西ノ強風トナリシカバ漂溺シテ船風ノ西進ヲ待ツ、今日午後風力減
 退シタレバ増帆進航ス、二十九日正午ミンダオ東岸ニ接近スルニ及ビ無風トナ
 ル依ツテ機走ニ移リ翌三十一日セレベス海ニ入ル。

(ロ) セレベス海 ミンダオ島南海ニ於テハ風位区々風力微弱ニシテ豪雨ヲ伴フス
 コール繁ク夜ニ入レバ電光雷鳴連続シ刻々逆海流強ク進行意ノ如クナラス、止ム
 ラ得ズ此ノ区域ヲ脱スルタメ七月二日機走ニテ六十哩西北西ニ航走シタル頃漸ク備
 南東ノ軟風トナリ帆走ニ復ス、七月四日早朝バラン海峡ニ達シ折柄ノ東南東風ニ

(ハ) スルー海 スルー海四日間ハ偏南ノ軟風連吹シ、時速概ネ三節ヲ保テ天候快
 晴ニシテ月明海上至極平穩ナル航海タリキ七月八日早晩バラバツク海峡ニ達ス、
 今日午前八時航海練習所長ヨリ「西貢、榆林ノ寄港取止メ直グ基隆ニ向フベシ」
 トノ指令ヲ受ケタレバ直チニ機走ヲ開始シ、午前十一時北バラバツク海峡ヲ通過
 シバラワン沿岸ヲ北上一路基隆ニ向フ。

(ニ) 南支那海ヨリ基隆迄 パラワン沿岸八月明ニシテ偏南西ノ微風平穩ナリキ、七
 月九日早晩パラワンヲ過ギ針路ヲ北ニ転進ス、支那海ハ連日快晴ニシテ偏南西ノ
 微風、機走北上ニハ好適ナリキ、七月十一日夕刻、航海練習所長ヨリ雨後ノ行動
 ニ関シ電報ヲ接受シタレバ今日午前八時過ギ北緯十九度東至一一九度半ノ地矣ニ
 テ帆走ヲ開始ス、此ニ特別機走三日八時間、巨離七四五哩ナリ。其後偏西ノ和風
 ニ屬シ、七月十三日午前三時台灣南端鷺臺鼻ヲ過ギ之ヨリ台灣島東岸ニ出テ折柄
 ノ偏西疾風ト順海流トニテ香爐島ヲ通過シタリ、此ノ頃ヨリ風力衰弱シ無風状態
 トナリタルモ順海流毎時ニ哩半強ニシテ台灣東岸ノ諸連峯ヲ左舷ニ望ミツ、北ニ
 圧流サレ、六月十五日午前花連港北方ヨリ機走開始十五日午後三時ニ十分基隆港
 ニ入港セリ。

基隆 航行 記 事

月 日	曜	行	事
七、一五	火	着港 職員招待会 (於公會堂)	
一六	水	船長公式訪問 (基隆 台北)	半舷半日自由上陸

十七	木	生徒總員基隆港内施設及頌國年氏庭園見学
十八	金	半航基隆市見学上陸、職員招待会（於台北）
十九	土	半航基隆市見学上陸、船長講演（於市公会堂）
二十	日	海ノ記念日、満船飾、祝賀式（於日本丸）職員生徒總員、市主催記念祝典参列、帆前操練供覧、船内公廂
二十一	月	生徒總員金山見学
二十二	火	生徒半航半日自由上陸、普通海員半航全前日
二十三	水	生徒總員、普通海員半航、台灣神社参拜及台北市内見学
二十四	木	半航自由上陸、船長出帆挨拶、招待会（於日本丸）
二十五	金	午前出港

復航概況

自基隆至厦門

昭和十六年七月二十五日午前十時五分基隆ヲ出港シ今日午後一時富貴角燈台ノ北ニ面八哩ノ地矣ニテ航走ヲ開始ス、當時無風狀態ニシテ潮流ノ影響ヲ受テ逆流セラルシモ夜ニ入ツテ次第ニ偏南西風吹起シタレバ漸次速カラ増加シ北面ニ航ス、爾来五日間偏南西ノ季節風卓越シ常ニ詰用キニテ縫航スル間ニ逆海流ノ夕ノ機走ニ移リ台十日午後彭佳嶼燈台ヲ東南東七哩ニ認ムル地矣ニ任流セラレ止ムナリ機走ニ移リ台湾海峡ヲ南西ニ航ス。○翌日午後十一時厦門港外大担峙燈台ノ南方ニ假泊シ黎明ヲ待ツ、八月一日早朝拔錨シ午前八時厦門港ニ投錨入港セリ。

之レヲ要スルニ基隆出港以來連日ノ逆風、逆海流ノ夕メ縫航數次已ムナリ機走ニテ台湾海峡ヲ通過シタルモ生徒ヲシテ此ノ区域ノ氣象狀況ヲ十二分ニ体得セシメ得タリト信ス

厦門 碇泊

月	日	曜	行	事
八	一	金	午前着港	
	二	土	船長公式訪問 午後半航神社参拜見学上陸	
	三	日	午前作業、午後全前日	
	四	月	戦跡見学、職員生徒總員普通海員一部	

自上海 至佐世保

昭和十六年八月二十五日午前九時興亞学生勤勞報國隊一八名乗船、軍官氏ノ見送りヲ受ケ正午上海ヲ出港、水先人嚮導ニテ黃浦江ヲ下江午二時半吳淞燈台ヲ通過シ七時五十分揚子江口ニテ水先人下船ス、翌二十六日備前ノ和風吹起シタレバ午白寒時四十五分航走ヲ開始ス、然ルニ夜ニ入ツテ風力衰弱シタレバ午十時再ビ機走ニ移ル、二十七日午前ヨリ不連続線ノ影響ニ依リ北東ノ逆風吹統シタルモ今日午八時二十分々島燈台ヲ通過シ二十八日午前九時半佐世保港口ニ於テ検度官乗船檢交ヲ行ヒツ、港内ニ進行シ午前十時四十分D十三号浮標ニ繫留入港セリ。此ノ区間ハ佐世保入港時ノ關係上主トシテ機走ヲ以テ航行シ航海中ハ学生隊ニ左表ノ如ク特別訓練ヲ実施セリ

興亞学生勤勞報國隊航海訓練実施要項

月日	曜	時間	事項
八二五	水	早朝 五三〇—七〇〇	甲板洗滌
八二六	木	午前 九〇〇—一一三〇	東船出港、居室割当、寢具整頓、船内案内、總務艇操練、船長講話
		午後 一三〇〇—一五〇〇	航路附近見学、船内心得、當番心得解説
		夜間 八三〇—三〇〇	自習

二七	水	右 同
二八	木	入港見学、返船準備
		火帯運講話、航海実習
		寢具返還、返船
		隊行中航路附近見学
		右 同

佐世保 碇泊

月日	曜	事項
八二八	木	午前入港興亞学生勤勞報國隊下船、船長公式訪問
二九	金	参謀長、職員招待午餐會（水文社）、人事部長、生徒招待午餐會（海仁会集会所）、佐世保市自由見学
三〇		海軍學生團乗船（三三名）午前出港

自佐世保 至東京（横浜 経由）

八月三十日午前十時五十三分佐世保港口向後崎燈台ヲ通過シ午后零時十分大立島ノ

南東三哩ヨリ帆走ヲ開始セシモ偏南西ノ和風ト強潮流ニ圧流セラレシカバ午白六時ニ十五分ヨリ再ビ機走ニ移レリ。○八月三十日早曉風位依然トシテ南西ナリシモ帆走トナシ詰開キニテ南々東ニ航スルヲ得タリ。午後三時颯海峡通過ノ夕メ機走トナシ午白四時全海峡ヲ通過シ午白八時三十分大隅海峡西口ニ於テ機開ヲ停止ス。將ニ風位西北西ニシテ月明、全海峡ヲ順走シ得タリ。○九月一日正午大隅海峡ヲ通過ス夜ニ入ツテ風力頓ニ衰弱シニ日朝無風風状態トナレリ。今日午前六時氣象通報ニ依レバ南方低緯度ニ颯風発生シ、漸次発達シテ北上ノ模様ナレバ今日午前十一時三十分都井岬東方ニ三哩ニテ總帆ヲ收メ機走ニ移ル所クテ四日午後七時半神子元島ニ達ス五日午前三時十六分劍崎燈台ヲ通過シ今日午前七時五分横坂檢皮鎗地ニ入港セリ午前八時半檢皮手續終了午前九時二十分出港シ東京ニ向フ。斯クテ今日午前十一時十分東京定繫地ニ投鎗、海洋學生団下船以テ茲ニ第二十四次航海ヲ終了セリ。便乗ノ海洋學生団ニ対シテハ次表ノ如ク特別訓練並ニ講話等ヲ施行シ又直勤務ヲモ課シタリ。

之ヲ要スルニ今復航ハ沿岸航海ニシテ為メニ機開ノ使用回数多カリキ尙颯風区域アリシモ颯風ノ影響ヲ蒙リタルコトナカリシハ幸ナリキ

海洋學生団訓練要項

月日	時間	内容	備考
八、三。土	早 五時—五時十五分	乗船、船長訓示、居室割当	八、浴
三一日	午 九時—	檣登練習、船橋見学	航海当直
九、一。月	午 九時—	機開室見学、手旗	航海当直
二、火	午 九時—	救命器具説明結索	航海当直
三、水	午 九時—	結索	航海当直
四、木	午 九時—	航海実習、旗號信号	航海当直
五、金	午 九時—	下船準備入港、下船	航海当直

五、寄港地事情

本航海ノ寄港地ニ関シテハ特記スベキ事項ナシ

六、學習記事

一、概説

今次航海ハ東亞共栄圏ノ水域ニ限ラレ特ニ佛印西貢及海南島榆林ノ寄港ヲ取止メ

○ 航海術 (九時間)

誤差論、潮汐、潮時潮高算法、海図及取扱、水路告示、沿岸航法、航路標識、大圈航法

○ 海上運送 (十二時間)

海運、經營、船舶、貨物運送、寄港地事情

○ 海軍法規 (九時間)

船鑑札、積量測定、船員法、公附屬法令、海商法、船舶職員法、船舶職員試驗規程、海員懲戒法、海上衝突予防法、内海水道航行規則、海軍予備員令、船員職業能力申告令

○ 氣象 (七時間)

天氣圖法、颶風圖内ニ於テル運用、電雨其他航海重要ナル地方暴風、氣候、氣圧配置

○ 英語 (七時間)

Flight List In Introduction Manila Weather Report
Introduction of the City of Saigon Conversation

Notes for Apprentices

○ 機關術 (八時間)

揚貨、揚船機、推進機及推進理論、蒸氣機、舵機、ハルシヨ一式標舵機、唧筒、原理

○ 数学 (九時間)

速度及加速度、落体運動、角速度及角加速度、速度ノ分解及合成、運動ノ定律、円運動

○ 船舶衛生 (七時間)

傳染病豫防、肺結核豫防、法定傳染病、急性傳染病予防、特殊疾患予防法、海港検査、創傷傳染、創傷處置、出血及軟部損傷ノ救急處置、骨折脱臼捻挫火傷、溺水假死救急法、人工呼吸及真死假死判別

○ 無線電信 (七時間)

電磁波ノ傳播特性、電波長又ハ周波數ノ計算及各種電器符号、電流及電圧計、音響通信術、蓄電池及其保守運用、電燈法註解、無線電信法其他關係法規

○ 航海実習

(1) 天測 全航海ヲ通ジ極力実施ス、特ニ沿岸航法ト併用シ航海術計算ニ趣味ヲ持タシメタリ 天測回数教左ノ如シ

天測種類	第一分隊	第二分隊	第三分隊
午前太陽觀測	三	二	二
正午又ハ近午太陽觀測	一	一	一
午後太陽觀測	二	六	九
太陰、恒星遊星觀測	一	一	一
合計	七	八	六

(2) 自差測定 副直生徒並ニ當直生徒ヲシテ當直ノ余暇朝夕太陽又ハ夜間恒星ニ依リ機會アル毎ニ測定セシメタリ

(3) 索星、夜間當直ノ余暇ニ之ヲ行ハシム

(4) 測深、上海、佐世保間ニ於テ徹底的ニ練習ヲ行ヘリ。

(5) 沿岸航法 陸岸、島嶼、燈台ヲ利用シ極力之ヲ行フ。

(6) 信 號 當直余暇航海実習トシテ之ヲ課シタリ。

○ 講 義

一 アンガウル燐磺事業 南拓アンガウル鉉業所事務係長石田繁之助氏

一 基隆港灣施設ノ狀況 基隆築港出張所長 吉村善臣氏

一 顏氏鉉山事業ニ就テ 昭陽鉉業会社取締役 菅原薫氏

一 金瓜石鉉山ニ就テ 日本鉉業会社主任 藤村昇氏

一 台湾船渠事業 台湾船渠会社事務 守松勝雄氏

一 厦門攻略戦ト警備現況 根據地隊副長 福田英城氏

一 鼓浪嶼租界ニ就イテ 警察分署長 警部 福田英城氏

一 吳淞敵前上陸ト上海攻略戦 陸軍 部隊副官 杉村廣藏氏

一 蘇州附近ノ海軍警備ノ概況 第一砲艇隊司令 杉村廣藏氏

一 支那國民性 商工會議所理事、博士 杉村廣藏氏

一 揚子江ト其航運 東亞海運上海支部長 竹下匡三氏

一 支那方面ノ海軍作戰ニ就イテ 海軍武官補佐官 竹下匡三氏

○ 見學場所

- 一 アンガウル島燐鉍工場及採掘状況
- 一 基隆市内及港灣施設
- 一 台北市内
- 一 金瓜石鉍山
- 一 廈門市内及戦跡
- 一 鼓浪嶼島、日光巖
- 一 上海市内及戦跡
- 一 蘇州
- 一 佐世保市内

七、機関状態

東京 | アンガウル

五月二十五日午前十一時二十分東京港出帆、今日午後五時五十分ヨリ帆走ヲ開始ス
 六月八日午後七時三十分機走ヲ開始シ、翌日午後十一時帆走ニ移ル、六月二十二日
 午後八時ヨリ機走ヲ始メ翌二十三日午後四時五十分良風ヲ得テ帆走ヲ開始セルモ島
 嶼近キヲ以テ機走当直買ヲ配シ翌朝八時「アンガウル」ニ到着ス

六月二十四日午後六時二十一分機関ヲ発動シ同夜八風向悪キ為機走ヲ續ケ翌朝五時
 ヲリ帆走ヲ開始セリ、六月二十九日正午機走ヲ始メ三十日午前十時三分停止ス、七月二日午後一時
 ヲリ今日午後八時迄又七月四日午前八時ヨリ今日午後四時二十五分迄各々海峡通過ノ為機走ス
 七月八日寄港地変更ノ電命ニ依リ午前九時ヨリ機走ヲ始ム、七月九日午後零時五十七分ヨリ
 四時三十分迄三時間半帆走セル外機走ヲ續ケ七月十一日午後八時三十二分帆走ニ移ル七月
 十五日午前二時十分基隆入港ノ目的ヲ以テ機関ヲ始動シ今日午後三時二十分基隆ニ到着セリ

基隆 | 廈門

七月二十五日午前十時五十分出港今日午後午後一時十分ヨリ帆走ヲ開始ス全三十日午
 後三時三十分ヨリ機走ヲ始メ三十一日午後十一時假泊翌朝六時三十八分拔錨全八時廈門ニ
 到着ス

廈門 | 上海

八月八日午前十時十分廈門出帆全十時半ヨリ帆走ニ移ル八月十七日午前二時半ヨ
 リ機走ヲ始メ全日午後八時吳淞檢疫所着翌日午前十時四十一分全地出帆午後一時四
 十五分上海朝日棧橋ニ到着セリ

上海 | 佐世保

八月二十五日正午上海出帆途中九時十五分ノ帆走ヲナシ八月二十八日午前十時四十分佐世保ニ到着ス

佐世保 — 横 浜

八月三十日午前十時五分佐世保出帆今日正午帆走トシタルモ風向悪キ為午後六時二十五分機走トナシ翌三十一日午前零時四十五分帆走今日午後三時五分ヨリ八時三十分迄機走ス

九月二日午前十一時三十五分ヨリ機走トナシ横 浜ニ向ヒ五日午前七時五分横 浜ニ到着ス

横 浜 — 東 京

九月五日午前九時二十分出港機走ノマ、東京ニ向ヒ五十一時十分東京定繫地ニ到着セリ

全航海ハ機走日数比較的長期ニ亘リタルモ常ニ良好ナル状態ヲ保持セリ

八、衛 生 状 態

家

住 航 當初ニ週間ハ陰雨常ニ天ヲ蔽ヒ概シテ陰鬱ノ氣ニ因ヤレタリ六月六日頃

ヨリ炎暑概ニ加ハリ其ノ後具ニ暑熱ニ對スル試練ヲ嘗メ前後五十三日ニ亘ル熱帯航海ヲ完服シ七月十五日基隆ニ入港セリ、往航中ノ最高氣温三十六度最低氣温十九度平均ニ十七度五分ナリ

復 航 基隆厦門間並ニ厦門上海間ハ天候良好ニシテ無風乃至微風ノ日多ク湿度高ク氣温最高三十四度五分ニ上リ一般ニ蒸暑ニ惱ミタリ上海東京間ハ概シテ平穩ニシテ暑熱モ著シク緩和セラレタリ斯クテ九月五日東京買意軒島東京港ニ帰着セリ復航中ノ氣温最高三十四度五分最低ニ十三度平均ニ十八度八分ナ

之ヲ要スルニ本航海ハ徹頭徹尾強烈ナル暑氣ト對抗シ其ノ間各自時局ノ重大性ニ鑑ミ不撓不屈克ク練習ニ精進シ以テ長期間ノ炎熱航海ニ堪ヘ得ル自信ヲ涵養シタルモノナリ、

健康状態

一般ニ良好ナリ生徒中肺浸潤ニ、肋膜炎ニ患重炎一ヲ派生シ内ニ名ハ基隆ヨリ内地ニ送還セリ其他ニ特記スヘキ傷病ヲ發生セズ一方便乗者ノ健康状態モ概シテ良好ナリ、体重ハ次表ノ如ク一般ニ往航ニ減少シ東京歸着時亦減少セリ是長期間ニ亘ル高温多濕ハ心身ノ弛緩殊ニ消化機能ノ衰弱ヲ招クニ因ルモノトス

體 重 表

部 別	員 数	品川出帆時 一人平均	基隆入港時 一人平均	品川帰着時 一人平均	増 減
生 徒	四九名	五八、五五九	五六、八五九	五五、〇二一	一八三、八減
普通船員	四一名	五三、三五六	五二、一六三	五二、一五一	〇、〇一ニ
總 員	九〇名	五六、一八八	五四、七一一	五三、六八四	二、〇二七

防疫保健ニ関スル施設

一、往航中腸チフスバラチフス混合感作ワクチン並ニコレラ感作ワクチン持種赤痢
ワクチン内服種痘等ヲ実施セリ

二、栄養強壯剤拓力素ハ今航毛服用セシメタリ長期間ニ亘ル熱帯圏内航海ニ当リ疲
勞抑制羅病率減少等相當見ルヘキモノアリタリ

寄港地衛生状況

基隆ノ衛生状態ハ良好ナリ廈門ハ赤痢瘧疾散発セシモ各自警戒シテ革ナキヲ得
リ、上海ハ恰モ流行中ナリシヲ以テ一般ニ生物採取ヲ嚴禁シ自由上陸ハ半

日ニ制限シ必ズ船内ニテ糧食セシメ困隊上陸ハ併當水筒ヲ携帶セシムル等防疫上深甚
ノ注意ヲ加ヘシニ依リ之亦不良ノ影響ヲ蒙ルコトナカリキ

給 養

主食ハ米麦混合食ニシテ暑氣ニ因ル麦質ヲ顧慮シ格納保全ニ一致ノ注意ヲ拂ヘリ
副食物ハ畜耐耐久性ニ富ム品種ヲ選擇シ且適度ニ冷蔵セシヲ以テ比較的長期間保
存ニ堪ヘタルノミナラス更ニ基隆上海ニ於テ適宜軟魚肉野菜ヲ補充セシニ依リ采
養保全ニ遺憾ノ兵ヲ認メズ

九 通 信 状 態

全航ヲ通ジ長波短波受信機共故障ナク常ニ完全ナル状態ヲ保持シ最良ノ能率ヲ發
揮セリ

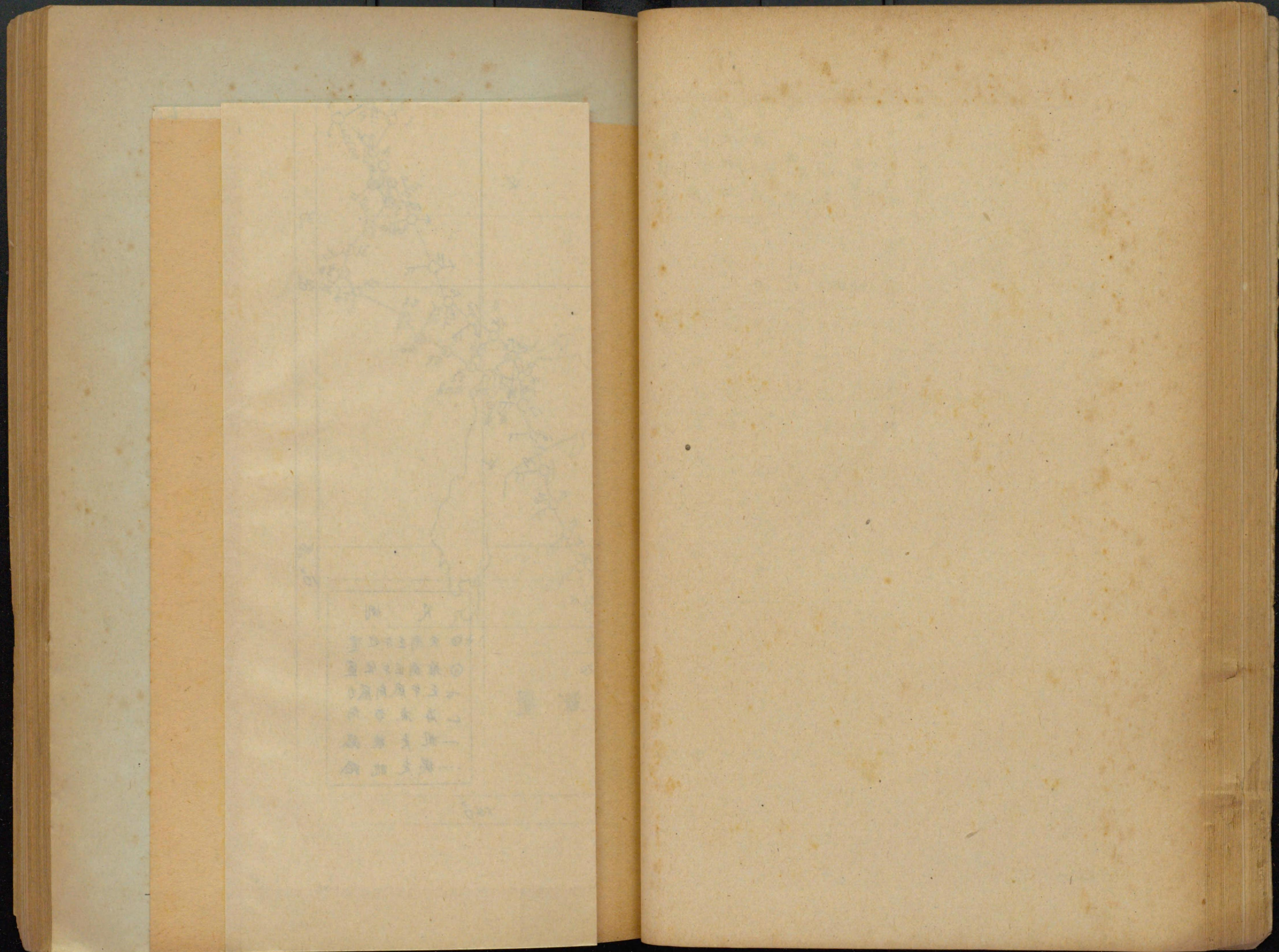
十 總 括

一、航海 航海区域ノ關係上風候ニ恵マレザリシト途中寄港地変更等ニ依リ往航
航海日數長期ニ亘リタルハ最近ノ記録ニシテ復航ハ寄港地數多ク且ツ
沿岸航海ナリシト特殊任務ノ關係上機関ノ使用日數比較的多カリキ、

尚颯風季節ナルニ不拘遭遇セザリキ
 終始熱帯暑氣航毎ナリシモ各種練習ニハ好適ニシテ生徒ノ自奮自勵ト
 乘員ノ助力ニヨリ練習效果ヲ挙ゲ得タリト信ス
 三 機関状態 機乏日数比較的長キモ常ニ良好ノ状態ヲ保持シタリ
 四 衛生状態 一敏ニ良好ナリ
 五 通信状態 常ニ良好充分其性能ヲ完セリ
 第二十四次航海記録

事項	往		復	
	記録	日日時	記録	日日時
気圧最高	七六五・〇	五一三・一	七六一・〇	九一〇・一
気圧最低	七五一・〇	七一四・一	七五〇・五	八一四・一
気温最高	三六・〇	七一・一	三四・〇	八一・一
気温最低	一八・五	五一・八	二三・〇	八一・七
水温最高	二八・〇	六一・八	二八・〇	七一・七
航位	東北 一四三度	東北 一四三度	東北 一四三度	東北 一四三度

事項	往		復	
	記録	日日時	記録	日日時
水温最低	一五・〇	五一三・四	二四・〇	八一三・一
最強風	七	六一二・六	五	七一三・九
最大波浪	六	六一二・六	五	七一三・九
最大傾斜	一八度	六一二・六	一五度	九一五・二
暴風雨	一回	五一三・七	ナシ	
漂溺回数	一回	六一二・六	ナシ	
帆走最大日程	一七二哩	七一三・三	八八哩	八一三・三
帆走最大速度	九・二五	七一三・三	五・五	八一三・三
総員呼乗	ナシ			
事故	ナシ			
航位	東北 一三一度	東北 一三一度	東北 一三一度	東北 一三一度



Small rectangular stamp with illegible text, possibly a library or archival mark.

練習船海王丸第二十三次航海航跡圖



航海統計	
東京—サバ—テマ—横浜—東京	
總航海時間	30 ^h -07 ^m -20 ^s
總航程	3327'
平均速力	4.58
内訳	
航行時間	29 ^h -15 ^m -30 ^s
航程	3190'
平均速力	4.50
横走時間	0 ^h -17 ^m -50 ^s
航程	137'
平均速力	8.16

- 凡例
- 実測正午位置 日附
 - 推測正午位置
 - ⊙ 正午風位及風力
 - 帆走航程
 - ↑ 流向

小笠原群島

航路
 一日平均
 毎時平均
 3.202哩
 155.5哩
 0.22哩



日本丸第二十五次航海報告

自昭和十七年一月二十日
至昭和十七年三月四日

各港着発月日表					
港名	入港月日	出港月日			
東京	一、三一	昭七、一、二〇	東京	二、七	
横浜	二、八	二、九	横浜	二、九	
館山	二、九	二、一〇	下田	二、一〇	
清水	二、九	二、一〇	横濱	二、一〇	
下田	二、一〇	三、四	東京	三、四	
横浜	二、一〇				
東京	三、四				

頁次	目次
八六	一 乘員名簿
八八	二 諸表
八八	(1) 各港着飛日時表
八九	(2) 航海摘要
九二	(3) 各港出帆現狀表
九四	(4) 航海一覽表
九六	三 訓練表
九八	四 航泊記事
一〇二	五 寄港地事情
一〇三	六 學習記事
一〇七	七 檢閱狀
一〇八	八 衛生狀
一一〇	九 通信狀
一一〇	一〇 總括

一 乘員名簿

職員 (一四名)

船長 名古屋松太郎

一等運転士 柏野栄一 次席一等運転士 今村茂一郎 二番運転士 宮西登

三等運転士 金山弘 三等運転士 廣田清一 四等運転士 細野匡男

機関長 篠津守吉 一等機関士 田崎三郎 二等機関士 土屋久太郎

事務長 外岡常彦

船医 松井篤二

首席通信士 佐野一男 次席通信士 西角綾男

生徒 (六三名)

富山商船学校 (一三名)

後藤隆吉、西井良三、柳瀬健次郎、松井信市、松田運雄、安部泰三、

藤原敏雄、坪島豊計、安川亨、柴裕吉、佐野正弘、塚本信夫、

安田薫

鳥羽商船学校 (八名)

大西金之助、野村 勳、嶋岡 修、日比野 廣利、北村光彦、瀬尾 勇、
室谷迪滋、嶋海英一

大島商船学校 (六名)

加藤 正、廣瀬 渡、山本次夫、水村老夫、中原清一郎、木水 栄、
鹿兒島商船学校 (六名)

押川國春、神田在久、山口 颯、竹下良治、寺園貞幸、大木次男、
廣島商船学校 (一〇名)

上邑新一郎、堀江輝雄、笹井訓三、河田秀穂、本實三郎、角本博、熊佐礼明、
島田繁春、吉野正雄、加藤 弘、
栗島商船学校 (七名)

守藤美博 香西景之、齊藤静夫、渡 文雄、竹中清、谷井秀雄、永泉徳泰

与刺商船学校 (一〇名)

藤井安正、渡部一正、森 典則、山地清夫、松平愛雄、重信信廣、高木 登、
郡築 務、宮地節夫、尾崎行雄、
朝鮮總督府逓信局高等海員養成所

平松義雄、山城虎雄、佐藤澄男

普通海員

水夫長上崎栄藏、水夫次長加藤富五郎、大工切石寅造、舵取汝島寅作

舵取山本敏藏、舵取渡辺政五郎、水夫 村田惣興門、水夫木田洋吉、

水夫 山崎仙藏、水夫上坂福松、水夫 田中卷太郎、水夫新井三郎、

水夫 池田耕太郎、水夫柴原茂男、水夫松岡 茂、水夫龜田鶴松、

水夫 上島弥五郎、水夫見習高橋繁雄

火夫長高川高助、油差茂井邦夫、油差小林輝治、火夫植田士藏、火夫鈴木輝、

火夫増田滿、火夫山本鐘一、火夫網代梅吉

司厨長高橋房吉、料理人増住重雄、料理人小林 茂、料理人小山茂一郎、

料理人山田節雄、料理人村石甚作、料理人土屋清治郎、給仕八角桂市、

給仕 齊藤浩紀、給仕浅田功吉、給仕東本光男、給仕手塚哲夫

二 諸 表

(A) 各港発着日時表

時 每	航 距 之 航							日 教				
	東 京	橫 濱	下 田	清 水	館 山	橫 濱	東 京	總 計	清 水	下 田	橫 濱	
橫 濱 — 館 山	東 京 — 橫 濱	總 計	橫 濱 — 東 京	下 田 — 橫 濱	清 水 — 下 田	館 山 — 清 水	橫 濱 — 館 山	東 京 — 橫 濱	總 計	橫 濱 — 東 京	下 田 — 橫 濱	清 水 — 下 田
一 哩 六 四	四 三 哩	四 三 哩	一 七 哩	七 八 哩	四 二 哩	九 一 哩	三 五 哩	一 四 哩	一 日 二 時 一 〇 分	四 時 一 五 分	八 時 〇 〇 分	二 時 二 五 分
八 哩 三 三	二 七 七 哩	二 七 七 哩	一 七 哩	七 八 哩	四 二 哩	九 一 哩	三 五 哩	一 四 哩	一 日 八 時 四 〇 分	四 時 一 五 分	八 時 〇 〇 分	二 時 二 五 分
八 哩 三 三	三 二 〇 哩	三 二 〇 哩	一 七 哩	七 八 哩	四 二 哩	九 一 哩	三 五 哩	五 七 哩	二 日 一 〇 時 五 〇 分	四 時 一 五 分	八 時 〇 〇 分	二 時 二 五 分

海 航	要 點	(B) 航 海 摘 要		港 名	入 港 日 時	出 帆 日 時
		各 港 間	航 程			
館 山	東 京	一 日	二 時 一 〇 分	東 京	昭 和 一 七 年 一 月 三 一 日 一 六 三 〇	昭 和 一 七 年 一 月 二 〇 日 一 〇 三 〇
橫 濱	東 京	一 日	二 時 一 〇 分	橫 濱	昭 和 一 七 年 二 月 八 日 一 三 一 五	昭 和 一 七 年 二 月 七 日 〇 九 〇 〇
東 京	橫 濱	一 日	二 時 一 〇 分	東 京	昭 和 一 七 年 二 月 一 日 一 四 三 〇	昭 和 一 七 年 二 月 二 〇 日 一 〇 三 〇
館 山	橫 濱	一 日	二 時 一 〇 分	館 山	昭 和 一 七 年 二 月 一 日 一 四 三 〇	昭 和 一 七 年 二 月 九 日 〇 五 四 五
清 水	橫 濱	一 日	二 時 一 〇 分	清 水	昭 和 一 七 年 二 月 一 日 一 四 三 〇	昭 和 一 七 年 二 月 一 九 日 〇 七 〇 〇
館 山	東 京	一 日	二 時 一 〇 分	館 山	昭 和 一 七 年 二 月 一 日 一 四 三 〇	昭 和 一 七 年 二 月 一 日 〇 六 三 〇
橫 濱	東 京	一 日	二 時 一 〇 分	橫 濱	昭 和 一 七 年 二 月 一 日 一 四 三 〇	昭 和 一 七 年 二 月 一 日 〇 六 三 〇
東 京	橫 濱	一 日	二 時 一 〇 分	東 京	昭 和 一 七 年 三 月 四 日 〇 八 五 〇	昭 和 一 七 年 三 月 四 日 〇 八 五 〇
館 山	橫 濱	一 日	二 時 一 〇 分	館 山	昭 和 一 七 年 三 月 四 日 〇 八 五 〇	昭 和 一 七 年 三 月 四 日 〇 八 五 〇
清 水	橫 濱	一 日	二 時 一 〇 分	清 水	昭 和 一 七 年 三 月 四 日 〇 八 五 〇	昭 和 一 七 年 三 月 四 日 〇 八 五 〇

備種	噸數	吃水			噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
		前部	後部	平均									
排水	347.0	5.6	5.8	5.7	341.0	5.6	5.8	5.7	341.0	5.6	5.8	5.7	
メダセンタン高サ	0.95	5.6	5.8	5.7	0.93	5.6	5.8	5.7	0.93	5.6	5.8	5.7	
飲料水	395.5	5.6	5.8	5.7	341.0	5.6	5.8	5.7	341.0	5.6	5.8	5.7	
燃料油	742.5	5.6	5.8	5.7	703.0	5.6	5.8	5.7	697.0	5.6	5.8	5.7	
炊事用石炭	190.0	5.6	5.8	5.7	160.0	5.6	5.8	5.7	150.0	5.6	5.8	5.7	
固定バラスト	659.8	5.6	5.8	5.7	659.8	5.6	5.8	5.7	659.8	5.6	5.8	5.7	
海水バラスト	1.85	5.6	5.8	5.7	1.85	5.6	5.8	5.7	1.85	5.6	5.8	5.7	
糧食	1.85	5.6	5.8	5.7	1.85	5.6	5.8	5.7	1.85	5.6	5.8	5.7	
備考		5.6	5.8	5.7		5.6	5.8	5.7		5.6	5.8	5.7	

(D) 航海一覽表

日	出帆		位置	航路	航程	風向	風力	天候	氣圧	氣温	大潮
	緯度	経度									
20日	35-34N	139-50E	0-21	不	1	S W	1	K	763.5	8.5	5.0
21	35-34N	139-49E	3-15	"	2	N E	3	B	764.5	11.0	9.0
22	35-35N	139-58E	2-40	"	7	N / E	1	BC	761.0	5.0	8.5
23	35-35N	139-50E	8-40	"	10	NORTH	1	BC	761.5	6.0	9.0
24	35-35N	139-49E	2-34	"	3	NORTH	3	B	761.5	9.0	8.0
27	35-32N	139-53E	2-15	"	5	NE	1	BC	755.5	8.0	9.0
28	35-32N	139-49E	2-50	"	7	Calm	6	B	760.0	6.5	9.0
29	横	横	2-45	"	3	North	2	S	767.0	0.0	5.5

2	35-11N	139-48E	* 1-10	木	11	NE	3	0	760.0	2.5	6.5
9	34-35N	138-56E	* 1-15	"	12	West	4	8	759.5	8.5	15.0

自 館 山 至 清 水

2	34-35N	138-56E	* 6-15	木	53	West	4	8	759.5	8.5	15.0
10	指	木	* 4-40	"	38	ENE	1	60	763.5	9.0	11.5

自 清 水 至 下 田

2	7	9	木	42	WNW	4	0	757.0	9.0	14.0
---	---	---	---	----	-----	---	---	-------	-----	------

自 下 田 至 横 浜

2	1	35-09N	139-49E	* 5-30	木	57	NE	2	8	765.5	9.5	12.5
22	横	浜	* 2-30	"	21	Calm	2	8	769.5	11.0	6.5	

自 横 浜 至 下 田

3	4	乘	乘	* 2-25	木	17	North	1	8	712.0	10.0	4.0
---	---	---	---	--------	---	----	-------	---	---	-------	------	-----

三 訓 練 表

年月日(曜)	訓練種類	開始終了時刻	摘 要
昭和十七年 一月二〇日	端艇操練	一一 四三 四〇 五〇	予告ナシ 発令シ總端艇ヲ降下シ生徒總員乗艇 セシメ梳溜及帆走ニウツラシム 各艇収容後 操練ヲ終ル 本操練ハ全員ニ対シ端部署ヲ熟 知セシムルヲ主眼トス 右艇開ヲ左艇用トナス、当時風位北々東風力 一、速力一五節ナリキ 火災場ヲ電機機室ト假定ス、各ポンプ 通風機 断其ノ他要具整備矣候ス、
一月二三日 (金)	上手廻操練	一一 三二 二四 五五	
一月二七日	防火部署操練	一一 〇〇 四一 五五	

一月二七日 上手廻操練

(火)

一三三
四三五

一月二九日 防空部署操練

(水)

(非常部署操練)

一八〇
一九三〇

一月三一日 ウインテウ

インドラス

一三〇
一五〇

二月一日

人命救助用籠
其他救命要
具ノ実演

一〇〇
一三〇

二月三日 端艇航走練

一六〇
一六〇

四 航 泊 記 事 概 況

自 東 京 至 横 浜

昭和十七年一月二十日船長八束組員一同ニ対シ訓示ヲ與ヘ一〇。東京港定錨地
ヲ拔錨第ニ十五次航海ノ途ニ上ル東組員職員一四名、生徒六三名普通海員三八名計
一一五名ナリ、

時ニ天気快晴偏北風ニシテ風力微弱ナル為メ展帆シ機関ノ助カラ得テ回頭シタル後
機関ヲ停止シ帆走ニ転シ茲ニ本航訓練ヲ開始ス

今次航海ハ戰時特殊事情下ニ航海ノ区域ハ主トシテ東京湾内ニ限ラレタル為メ假若
日教多カルベキモ航海並ニ假泊中モ外洋航海中ト推定シ能ク限リ訓練並ニ実習ヲ課
シ航海ハ事情ノ許ス限リ努メテ帆走ヲ行フ事トス

一五。羽田燈標沖合ニ拔錨假泊ス

一月二十二日〇九〇。拔錨帆走ヲ開始ス、偏北ノ輕風、時速ニ五節海上蒙氣アリ展
望良好ナラザルモ却テ大洋帆走中ノ感生ズ、同日一八〇。船橋南方沖合ニ拔錨假泊
ス、一月二十三日〇九〇。拔錨總帆ヲ展シ帆走ヲ開始ス、僚艇海王丸及高等商船ノ

左舷用ヲ右舷用トナス、當時風位北々東風力
ニ、時速ニ五節ナリキ
本部署ニ対スル説明ヲナシ非常管制ヲ発令シ
船内ヲ整備シタル後生徒總員交通艇ニ乗艇セ
シメ本船ノ状況ヲ外部ヨリ見学セシメタル後
航海灯、視認距離並ニ信号燈ノ実験ヲナサシ
メ本操練ヲ終ル本操練ハ夜間施行シ外洋航海
ノ準備ヲ行ハシムルヲ目的トス
生徒總員各分隊別ニ三班ニ分レ交互ニ運転法
ヲ練習セシム
生徒總員ヲ四班ニ分テ人命救助用籠、遭難信
号要具、救命艇属具及航海用具ノ使用法ヲ実
演セシメタリ
港内ヲ備隊航走シクル後ニ保松原ニ至リ甲板洗

大成丸ノ帆影ヲ附近ニ認メタリ。午舟無風状態トナリ潮流ニ左右セララルルニ至リタレバ暫時機関ヲ使用シ一五〇。羽田北方沖合ニ碇錨假泊ス、一月二十七日日本船進水第十二周年記念日ニ當リタレバ記念行事ヲ行ヒタル後一〇。碇錨帆走ヲ開始シタルモ午舟ニ入り風位帆走ニ適セザルニ至リタレバ一旦千葉盤洲島北方ニ碇錨總帆ヲ收メタル後碇錨シ一七〇。過ギ羽田北方沖合ニ碇錨假泊ス、一月二十九日夜半ヨリ荒天トナリ強風吹続シタルモ三十一日午舟ニ入り天候回復シタレバ一三〇。碇錨備北ノ和風ニ駕シ帆走ニテ横浜ニ向ヒ横浜港口附近ニ碇錨トシ一大三。第三区ニ碇錨横浜ニ入港ス

横 浜 港 碇 泊

横浜港碇泊一週間、港灣施設並ニ海務院航路部等見学ヲナシメ時ニ八上陸ヲ許可シタリ、尚特ニ機動艇ヲ降下シ、生徒ヲシテ艇ノ運航ノ練習ヲ行ハシメタリ
本船乗後ノ航海ニ関シテハ航海練習所及横浜在勤海軍武官府ト連絡ヲ行ヒ二月七日午前碇錨出港ス

自 横 浜 至 館 山

時ニ海面蒙氣アリシモ其ノ後視界漸ク良好トナルマ偏西ノ風吹キ起リ風勢強マルト共ニ氣圧降下シタレバ第一海堡西方ヨリ急遽針路ヲ変更シ一〇〇。横須賀軍港沖合碇錨假泊ス、翌八日風力衰ヘタレバ一〇〇。碇錨館山ニ向ヒ一三〇。碇錨館山ニ着ス

自 館 山 至 清 水

二月九日〇六〇。碇錨清水ニ向フ、偏北ノ風ニ展帆以テ機走ノ補助トシタルモ大島附近ニ至リ風力衰ヘタレバ收帆ス、其ノ後天気快晴温暖ニシテ海上平穩ナリキ伊豆半島南岸ニ至ル頃ヨリ偏西ノ逆強風ニ遭ヒタルモ駿河湾ニ入りテヨリ順海流ノ影響ニ依リ一六四。清水ニ入港スル事ヲ得タリ

清 水 碇 泊

清水碇泊十日間氣温比較的温暖ニシテ諸種ノ訓練ヲ行フニ當リ便宜ヲ得タリ
碇泊中ノ主ナル行事左ノ如シ

二月九日	月	日	曜	行	事
一〇日	火	月	曜	着 港 (午後)	船長公式訪問、半舷上陸

一一日	水	紀元節、滿船飾、遷拜式、半船上陸
一二日	木	人命救助用諸屬具実演端艇帆走練習、入浴
一三日	金	考查、焼津水産學校生徒見學
二月一四日	土	考查、鈴興商店従業員見學、海務局支局主催、職員招待午餐會
一五日	日	大掃除、航海実習、鈴興商店主催招待晚餐會
一六日	月	考查洗濯、新嘉坡陥落、船飾、軍歌練習、映画會(夜間)
一七日	火	船飾、生徒總員、日平平久能山行軍、飲料水積載
一八日	水	大東亞戰爭第一次戰捷祝賀式、船飾、船長出港挨拶、半船上陸、三練習船主催官民招待晚餐會(於大成丸)
一九日	木	出港(早晩)

自清水至下田
 二月一九日。七〇。拔錨下田ニ向フ、途中偏西風強吹シタルモ本日一一一五下田ニ入港ス

自下田至横浜
 下田碇泊中ニ於テ徳川末期ノ史跡ヲ見學セシメタル後二月二十一日。六三。拔錨横浜ニ向ヒ途中順海流ノタメ同日一四三。横浜ニ入港スル事ヲ得タリ

横浜碇泊中生徒ハ特ニ海軍報因西関東支部ニ於テ横浜在勤海軍武官ヲ指導ノ下ニ信号術ノ講習ヲ受ケシメ戰時下船舶運航上特ニ必要ナル各種信号技術ノ練習ニ當ラシメタリ

自横浜至東京
 三月四日。八五。横浜港ヲ出港シ途中自差測定ヲ行ヒ同日一一一五東京定繫錨地ニ拔錨第二十五次航海ヲ終了セリ

五 寄港地事情
 本航海ノ寄港地ニ関シテハ特記スベキ事項ナシ

- 海上運送 (二時間)
- 海運ノ經營、海上貨物運送
- 海軍法規 (二時間)
- 船員法、戰時下特殊法規
- 氣象 (三時間)
- 颶風、颶風、航海ト氣象
- 英語 (三時間)

Questions for examination of mates

- 機 関 学 (二時間)
- デイゼルエンジンノ原理及動作、電氣学大意
- 数 学 (ナシ)
- 船舶衛生 (一時間)
- 航海準備、海港檢疫、創傷處置
- 無線電信 (二時間)
- 方向探知機

○ 航海実習

(1) 天測、全航海ヲ通ジ大洋ニ出テザリシモ大洋航行中ナル想定ノ下ニ極力機
 倉ヲ利用シ実施セリ、天測回数左ノ如シ

天 測 種 類	第 一 分 隊	第 二 分 隊	第 三 分 隊
午前太陽觀測	一〇	六	七
正午太陽觀測	七	五	四
午後太陽觀測	四	四	六
月、恒星、惑星觀測	二	二	六
合 計	二三	一七	一九

- (2) 自差測定、假泊、碇泊中共ニ非番分隊ニ機会アル毎ニ行ハシムルト共ニ
- (3) 横 浜 - 東京間ニ於テ本船ヲ巡回シ全員ニ計算セシメタリ
- (4) 測 深、東京灣航行中努メテ練習ヲ行ヘリ
- (5) 信号、発光、旗航、手旗共ニ戰時下特ニ徹底的ニ練習セシムルト共ニ横 浜
 碇泊中約一週間ニ亘リ講習ヲ受ケシメタリ、

沿岸航法、航行中ハ常ニ本実習ノ機会ニ恵マレタレバ之カ実習ヲ行ヘリ

○ 見学場所

海務院航路部横浜出張所

七、機関状態

東京—横浜

一月二十日午前十時三十分定繫地ヲ出港シ一月三十一日午後四時三十分横浜ニ入港セリコノ期間ハ機関ノ使用ハ出動又ハ假泊及出入港時ナリキ

横浜—館山

二月七日午前九時出港今日午前十一時横須賀沖ニ假泊翌八日午前十時五十分假泊地出港今日午後一時十五分館山ニ到着ス

館山—清水

二月九日午前五時四十五分出港今日午後四時四十分清水ニ入港セリ

清水—下田

二月十九日午前七時出港今日午後十一時十五分下田ニ入港セリコノ期間廻転教ハ毎分一八八ニシテ時速一〇、二四節、失速一五、一六フパーセントレナリキ

下田—横浜

二月二十一日午前六時三十分下田出港今日午後二時三十分横浜ニ到着ス

横浜—東京

三月四日午前八時五十分出港今日午前十一時十五分東京定繫地ニ到着セリ

第二十五次航海中ハ高速運転ヲ為ス事多カリシモ常ニ良好ナル状態ヲ保持セリ

八、衛生状態

概況

一月二十日第二十五次航海ノ途ニ就ク乗員職員十四名生徒六十三名普通船員三十八名合計百十五名ニシテ横浜横須賀、館山、清水、下田ニ回航シ三月四日東京ニ到着セリ、コノ間天候好晴ノ日多ク気温最低寒度、最高十七度五分平均八度七分気濕亦低下セシコト多カリシモ特ニ氣象的影響ヲ蒙ルコトナク概シテ始終心身緊張シ各自善ク聖大時局ヲ認識シ銳意練習ニ精進セリ

健康状態

一般ニ良好ニシテ生徒中一名肋膜炎ニ罹リシモノト生徒二名普通船員一名ニ所謂流行性黄胆ト認めテモノニ罹鬼セシモノアリシ外特記スヘキ傷病ナク休業者モ極メ

テ少数ニシテ多クハ二、三日ノ静養ニヨリ輕快ヲ見ルニ至リシモノナリ
 休重ハ左表ノ如シ

平均体重比較表

部別	員数	品川出帆時一人平均	品川帰着時一人平均	増減
生徒	六三	五九、四	六〇、六	増
普通船員	三八	五一、九	五三、〇	増
平均	一〇一	五五、六	五六、八	増

寄港地衛生班ニ防疫施設
 横浜、清水、下田等寄港各地ハ何レモ衛生状態良好ナシヲ以テ防疫其ノ他ニ関シ特
 殊ノ施設ヲ実施スル要ヲ認メサリヤ

給養

主食ハ七分搗ニ圧搾麥ヲ混合シ副食物中獸魚肉ハ当初品不足ノ為充分ノ量ヲ積載シ
 能ハサリシモ清水ニ於テ適量ヲ補填セシニ依リ特ニ支障ヲ承スコトナリ且全員殆ど終食
 欲旺盛ニシテ栄養保衛上遺憾ノ疾ヲ認メサリキ

九 通信状態

全航ヲ通ジ長波短波受信機共故障ナク常ニ完全ナル状態ヲ保持シ最良ノ能率ヲ發揮
 セリ

一〇 総括

今次航海ハ大東亞戦争下特殊事情ノ下ニ航海区域極度ニ制限ヲ加ヘラレタル結果、
 本ダ嘗テ見ザル所ノ航海様式トナリタルモ事情ノ許ス限リ外洋航海中ナリトノ
 想定ノ下ニ諸種ノ訓練ニ當リタルモ直ニ帆船練習ノ目的ヲ達シタリト言フヲ得ザル
 ハ遺憾トス

海王丸第二十三次航海報告

自昭和十六年二月十日
至昭和十六年三月二十五日

東京	横浜	千葉	神戶	東京	港名
三、二五	三、二四	三、六	二、二七	—	月入 日港
	三、二五	三、一〇	三、六	昭十六 三、一〇	月出 日港

各港着発月日表

一	乘	員	名	簿	次	一三
二	諸	名	簿	表		一五
	(A)	各港	飛着	日時表		一六
	(B)	航	海	摘要		一七
	(C)	各港	出帆	現狀表		一八
	(D)	航	海	一覽表		一九
三	訓	練	表			二〇
四	航	治	記	事		二四
五	寄	港	地	事		二五
六	学	習	記	事		二三
七	機	関	狀	態		三八
八	衛	生	狀	態		三九
九	通	信	狀	態		四〇
一〇	總	括				四一

一 乘 員 名 簿
職 員 (十四名)

船 長 西 澤 貞 徳

一 等 運 転 士 横 田 利 雄 次 席 一 等 運 転 士 内 山 三 郎 二 等 運 転 士 千 葉 宗 雄

三 等 運 転 士 中 村 嘉 六 三 等 運 転 士 高 橋 茂 四 等 運 転 士 中 田 甚 作

機 関 長 勝 田 勝 郎 一 等 機 関 士 片 山 定 九 二 等 機 関 士 吉 田 利 八

事 務 長 中 田 守 作

船 医 加 藤 順

首 席 通 信 士 藤 平 義 幸 次 席 通 信 士 本 田 家 四 郎

便 乘 者 畫 家 高 橋 亮

生 徒 (五十一名) (研) 八 研 究 生 (十) 八 十 期 生 他 八 十 一 期 生

富 山 商 船 学 校 (八 名)

(研) 森 岡 清 一 吉 川 勲 湊 武 夫 内 井 健 二 石 灰 義 雄 網 谷 清 吉

大 脇 鉄 夫 澤 田 辰 雄

鳥 羽 商 船 学 校 (八 名)

(研) 小野良夫、(十) 青木留次郎、(十一) 合山治、永谷茂、宮增一郎
西岡光雄、中村正司、松岡清三郎

大島商船学校 (四名)

松井 勲、坂本次郎、左衛門、中村 輝、星出徹朗

鹿兒島商船学校 (七名)

(研) 山下春季、遠矢良和、村汝豊吉、山崎正志、池汝平吉、山田純義、
相良 悟

鹿兒島商船学校 (九名)

(十) 本崎静雄、曾根生男、久門正臣、刺田 論、吉川陽曹、長畑光祐、
金光 浩、新川幸登、岡 敬莊

粟島商船学校 (六名)

(研) 瀧口一一、三野武徳、増田清一、深尾光正、丸岡 祐、小野 忠

弓削商船学校 (三名)

八塚元一、菊地 勝、月原計一

兒島商船学校 (二名)

(十) 黒田季一 (十) 塩物大助

朝鮮總督府逓信局高等海員養成所 (四名)

(十) 柳原 久、桂巖彦、高橋秀則、永井三郎

普通海員 (三十九名)

水夫長三浦長一郎、水夫長 末本一義、大工立野久男、舵取柳原敬夫、同 浜田弘、
同 石崎三之助、看護手基石栄太郎、水夫柳 國雄、同 青木安太郎、同 鈴木通隆

同 中野富正、同 伊集院公利、同 野寄龜松、同 高橋十代治、同 佐藤照雄、
同 尾尻二六、同 鈴木 一、同 溝口益男、水夫見習吉本義道、同 青木富男

同 三宅甚之助

火夫長瀧口幸太郎、油差坂元喜之助、同 鈴木信太郎、火夫河野 晃、同 相澤武司

火夫見習大崎 勇

司厨長栗川龜三郎、料理人 一等五十嵐貞二、同 坂口久治、料理人大坂八助、同 井坊順一

同 諏訪米男、料理人 見習 多田甲子

一等給仕 酒井重次、給仕 辰本 明、同 佐藤大郎、給仕見習 青木恒男

二、諸 表

每	日 一 平 均 (哩)				航 走 距 离 (哩)				總 計
	東 京	横 浜	テニアン	サイパン	東 京	横 浜	テニアン	サイパン	
東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	二九日一三時三〇分
サイパン	サイパン	サイパン	サイパン	サイパン	サイパン	サイパン	サイパン	サイパン	〇日一七時五〇分
テニアン	テニアン	テニアン	テニアン	テニアン	テニアン	テニアン	テニアン	テニアン	三〇日〇七時二〇分
總計	總計	總計	總計	總計	總計	總計	總計	總計	三〇日〇七時二〇分
六、〇〇	九、五八	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	六、一〇
六、〇〇	六、六七	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	六、一〇
六、〇〇	六、六七	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	一、〇七、九	六、一〇

時 日 海 航	寄 埠 航 海		帆 走	機 走	合 計
	各 港	間 隔			
東京	東京	サイパン	一六日二時一〇分	〇日〇五時一〇分	一七日〇二時二〇分
サイパン	サイパン	テニアン	〇日〇二時三〇分	〇日〇〇時三〇分	〇日〇三時〇〇分
テニアン	テニアン	横 浜	一二日一三時五〇分	〇日一〇時二五分	一三日〇時一五分
横 浜	横 浜	東 京	一〇日一三時五〇分	〇日一〇時四五分	〇日一〇時四五分
總計	總計	總計	三、一九〇	一、三三七	三、二二七

(B) 航海摘要

港 名	入 港 日 時	出 港 日 時
東京	昭和十六年三月十七日午後一時五十分	昭和十六年二月十日午前十一時三十分
横 浜	三月六日午後一時四十五分	三月六日午前十時四十五分
テニアン	三月二日午前六時四十五分	三月十日午後三時二十分
東 京	三月二十五日午後〇時四十分	三月二十五日午前十時五十五分

(C) 各港ノ出帆現状表

出帆月日	港名		職員	生徒	普通海員	便乗者	合計	前部	後部	平均	排水噸数	飲料水合計	
	東京	サイパン											
昭和十六年三月十日	東京	サイパン	一四名	五一名	三九名	一名	一〇五名	五米四八	五米九八	五米七三	三、五〇〇	〇米九六	四五九噸五
同年三月六日	東京	サイパン	一四名	五一名	三九名	一名	一〇五名	五米四一	五米八三	五米六二	三、四一九	〇米九二五	三九六噸
同年三月十日	東京	サイパン	一四名	五一名	三九名	一名	一〇五名	五米四〇	五米八二	五米六一	三、三九九	〇米九一	三八二噸

考備	要項	碇泊日数				平均	
		總計	横浜	テニアン	サイパン	總平均	横浜
燃料油消費量	往航	三、六六噸	二日	一日	六日	四、九二	
飲料水消費量	復航	五、三五噸	〇日	一日	四日	七、七〇	
排水消費量	合計	九、〇一噸	二日	一日	一日	五、〇一	
碇泊時間		二日 一四時四〇分	一日 一六時一〇分	四日 九時三五分	六日 二〇時五五分	八、一六	
碇泊日数		八、二噸	計	横浜港沖	計	七、七二	
碇泊時間		一日 〇三時一〇分	一日 〇三時一〇分	一日 〇三時一〇分	一日 〇三時一〇分	四、五八	

燃料	六四〇七	六一〇	六〇
炊事用石炭	三三〇五	三〇〇	二八〇
固定銅屑バラスト	六三五八	六三五八	六三五八
糧食	二五噸	二五噸	二五噸
糧食	四〇噸	二八噸	二六噸
備水	一六噸	九噸	八噸

前記ノ外倉庫品其他約一一〇噸アリ。

D. 航海一覽表 往 航 自 東 至 サイパン

月日	正午位置		航程 時間	針路	航程 距離	風向	風力	天候	氣圧	氣温	水温	一日/主要		潮流区域	航程	
	緯度	經度										風向	風力			
2-10	35-35	139-52	*0-30 19-46	北定	4	WNW	2	B.C	752.5	3.0	2.5	NE/N	5	5	潮流区域	16.6
11	33-30	142-18	*4-00 19-46	123	*38 156	N/E	4	"	766.5	10.5	11.0	N/E	4	4		5.3
12	33-04	144-09	23-52	106	115	S/W	6	B	762.0	15.5	8.0	S/W	6	6		不明
13	31-26	146-00	23-52	136	140	NW/E	7	"	758.0	13.0	10.0	NW/E	7	7		不明

*印ハ機志ス

14	29-34	149-09	23-55	153	126	ENE	4	B.C	766.5	14.0	12.0	ENE	4	4		24.0	33.6
15	28-52	148-40	23-55	118	147	Nh/W	3	D	763.0	16.0	16.0	NW/W	3	3		不明	16.3
16	29-56	149-52	23-55	131	85	NW/W	3	B.C	769.0	18.0	18.0	NW/W	"	"		323	16.3
17	26-41	150-03	23-58	193	76	WE	1	B	768.0	18.0	18.0	NE	2	2		249	5.7
18	26-13	150-43	23-59	128	46	SSL	3	B.C	766.5	21.0	21.0	SSL	3	3		122	15
19	24-35	151-07	23-58	168	100	NW/E	2	"	765.0	23.0	22.0	NW/E	"	"		121	11.9
20	22-10	151-12	23-59	178	145	ENE	5	"	764.0	24.5	21.0	ENE	4	4		102	9.5
21	20-21	150-18	24-04	205	120	East	3	"	764.0	26.0	22.5	E/S	3	3		261	6.6
22	18-39	149-39	24-03	200	108	ENE	4	B	763.5	29.0	23.0	E/W	"	"		260	5.8
23	17-05	149-00	24-02	202	101	E/S	"	"	763.0	28.0	23.5	E/S	"	"		290	16
24	16-25	149-37	24-05	243	87	ESE	3	"	761.0	28.0	26.0	ESE	"	"		351	12
25	16-01	149-00	24-02	236	43	South	2	"	761.0	30.0	28.0	SW	1	1		354	10
26	15-44	146-52	24-00	204	17	NW/W	1	B	761.5	29.0	29.0	NE	2	2		255	4
27	15-11	145-44	24-35	248	71	E/W	2	D	761.5	25.5	27.0	ENE	"	"		302	14.9

28	41 10	1-10 *0-40	不定	7 *3	E/S	1	0	761.5	280	29.0		
27	"	"	"	"	SE	"	0	763.0	280	26.0		
26	"	"	"	"	East	"	B.C	762.5	285	29.0		
25	"	"	"	"	E/N	2	"	763.0	30.0	28.0		
24	"	"	"	"	East	"	"	764.0	32.0	28.0		
23	"	"	"	"	NE	2	B	765.0	29.0	28.0		

横 航 自 41 10 至 41 10

3-6	15-07	145-37	1-15 *0-30	不定	7 *3	E/N	5	763.5	295	28.0	SE/N	5	潮流区域
7	7 = 7	7	"	"	"	E/S	3	764.0	285	29.0			
8	"	"	"	"	"	E/NE	"	763.5	30.0	29.0			
9	"	"	"	"	"	"	"	761.5	29.5	28.0			
10	"	"	"	"	"	E/N	3	762.0	29.5	29.0			

自 41 10 至 東京 (横浜経由)

2-11	11-07	144-13	20-13	328	153	East	4	763.5	27.5	27.0	E/N	4	330	5.8
12	19-16	143-03	24-05	333	145	ESE	2	765.0	27.0	28.0	ESE	3	310	12.4
13	30-26	142-10	24-05	325	86	E/N	3	766.0	27.0	26.0	ENE	3	373	16.9
14	22-11	140-55	24-02	326	125	SE	4	765.5	27.0	26.0	SE	"	276	10.2
15	22-52	140-56	24-01	1	41	NW/N	1	765.5	27.0	26.0	N/E	"	47	17.6
16	23-55	137-19	24-06	305	109	E/NE	3	764.5	23.5	23.0	ENE	3	311	6
17	26-00	137-58	24-05	330	145	S/E	5	760.5	24.0	22.0	SSE	4	283	9.2
18	28-08	136-13	24-07	324	158	WNW	7	756.5	21.0	19.5	WIN	6	185	10.1
19	29-59	136-49	23-56	16	114	W/N	5	761.0	20.5	16.5	"	5	245	19.0
20	31-35	137-07	24-00	9	98	SW	2	763.0	19.0	19.0	SW/W	2	61	14.6
21	33-39	136-52	24-00	354	125	W/S	5	761.0	18.0	18.0	"	4	72	9.6
22	34-25	139-31	21-30 *2-30	不定	139 *21	E/NE	3	760.5	16.0	18.0	NE/E	"	62	23.2
23	35-07	139-44	19-40 *2-20	"	48 *50	N/E	"	759.5	10.0	9.0	N/E	2	99	31.0

24	機	飛	沖	X3-35	"	*24	"	"	95.5	9.0							朝航区域
25	35-31	139-49	X1-15	"	"	*9	NNW	6	8	760.5	8.0						
26	飛	飛	*0-40	"	"	*4	EAST	1	B.C	758.5	8.0						

三、訓練表

月日	曜	至自時間	記	事	参加人員
二月十五日	土	午前八時五十分 同 一時三十分	總端艇部署操練		總員
二月十九日	水	午前八時五十分 同 一時三十分	火災操練		同 右
二月二十六日	水	午前九時十分 同 一時十分	總端艇部署操練並ニ溺者救助操練 風下側ノ第一、二、四及六号艇ヲ降下シ本船ノ北東距 島約一哩半ニ在ル傍船日本丸ヲ帆走ニテ一周セ シム。続イテ溺者救助操練ヲ行ヒ撓走ニテ日 本丸ヲ一周セシメ四隻ヲ以テ日本丸ヨリ本船迄		同 右

三月四日	火	午前八時三十分 同 一時十分	撓漕競争セシム。 帆走競争(サイパン碇泊中) 職員、研究生並ニ十期、各機 十一期生及普通海員八六隻ノ端艇ニ分乗シ電ノ 子礁浮標、沖ノ礁浮標及ビ其ノ後方ノ碇泊船 ヲ回航スル直航距離約三哩ノ競走 總端艇部署操練 第一、三及五号艇ヲ降下シ帆走ヲ以テ本船ニ 隨航セシム		同 右
三月一三日	水	午前八時五十分 同 一時十分			總員

註 操練ノ必要上実施セル上テ廻シ、下手廻シ、脚踏法等ハ本表ニハ含まズ。尚本
航海ハ基礎的訓練ヲ主眼トセリ。

往 航 概 要
自 東 京 至 サイパン島

本船八船長以下職員一四名生徒五一名普通海員三九名使乗者一名計一。五名乗組
ミ昭和十六年二月十日関口航海練習所長其他多数ノ見送りヲ受ケ、東京港ヲ飛シ第
二十三次航海ノ途ニ就キ二月二十七日無事「サイパン」港ニ到着セリ

関口航海練習所長訓示要旨

「本日は此ノ雪ノ朝、寒サノ折、諸君が練習航海ノ壯途ニ上ラントシテ元氣溢刺ト
シテ居ルノヲ見ルハ最モ欣快トスル處デアリマス。
諸君ハ各商船学校ニ入ツテ席上学科ヲ終了サシ、更ニ海兵団ニ於ケル軍事教育ヲ經
テ本船ニ乗組マレタガ、ソレ等ヲ通ジテ過ギタニ千六百年ハ重大ナル時局デアツタ
コトヲ自覺サレテ居ルト思フガ、扱テ二千六百一年ニナツテ見マスト諸君が新聞紙
上テ御承知ノ如ク時局ハ愈々切迫シテ来マシテ、日本ハ三國同盟ヲ背景ニ東亞共榮
圈ノ確立ヲ計ルノミナラズ將來世界ヲ指導シテ立ツベキ位置ニアルト言フ覚悟が大
切デアリマス。支那事変ハ前途未ダ多難ヲ其ノ見通シサヘモツカズ、一方蘇聯トハ
一時小康ヲ得テキルガ何時如何ナルコトガアルカモワカリマセン。
更ニ英國ヨリ出テ新大陸ニオシ渡リ所謂血ハ水ヨリモ穢イ亞米利加が英吉利ヲ援助
シテ日本ノ邪魔ヲスルバカリデナク事毎ニ反感ヲ露骨ニシテキマス。議會ニ於テモ

嘗テ見ザル緊張振ヲ示シ松岡外務大臣ハ辛直ニ日米關係ヲ表明サレテキマス。
大平洋ノ波高シトハ單ナル形容詞デナクナツテ諸君が航海シテキル間ニモ如何ナル
事柄ニ出會フカモ知レナイデアリマス
今迄ハ陸軍が主トシテ外敵ニ當ツテ来、海軍ハ之ヲ援助シ協力シテキタガ之レカラ
ハ海軍が非難ニ大切ナル役割トナツテ来マシタ。
諸君が日本海員トシテ同時ニ海軍豫備員トシテ海軍ノ重大責務ヲ自覺スルトキ更ニ
一層ノ緊張ヲスルト共ニシツカリシテ戴カネバナライ。初練習航海ニ出帆スルニ
當リ大イニ張切り学校デ習ツタ実カラ發揮シ將來立派ナル海員タルノ素質ヲ涵養サ
レンコトヲ希望シマス。在学中セツノ学校が官立ニ移管サレ、校長始人先生モ官立
ニナツテカラ非常ニ精勵サレテキル。諸君モ亦意ヲ新ニシテ此ノ航海ニ向ハレル様
望シマスト共ニ長イ航海デハナイガドウカ身体ヲ大切ニシテ航海ノ目的ヲ果シ再ビ
元氣ヲ歸港サレンコトヲ祈リマス

二月十日午前十一時三十分芝浦岸壁ヲ解纜シ東京海灣ヲ南下シ午後一時五。分洲
崎ノ西方距離三哩半ノ地兵ニテ僚船日本丸ト並航シ、機関ヲ停止シ總員ニテ總航

ヲ展装シ折初ノ北々東ノ和風ニ駕シ帆走ニ移ル。同七時二十分野島崎ノ南方七哩ニ連シテヨリ東南東方ニ航走セリ。爾来天候及風位、風力共ニ冬季北太平洋ヲ相前後シテ東進セル低気圧並ニ不連続線ノ影響ヲ受ケ北々東乃至北西ノ順風ニ恵マレ連日快走ヲ続ケ十六日正午ニ八北緯ニ七度五六分東經一四九度五二分ニ達ス。出港以來此ノ時迄ノ帆走日時五九時一五分同航程七六九哩ニシテ平均速力五五ニ節ナリ之レヨリ南下ヲ企テタルモ此ノ頃小笠原群島附近ニ七セ。概ノ一高気圧東進スルアリ。本船ニ接近シ来ル為メ一時風力稍衰ヘシモ之ガ通過後ハ已ニ北東恒風帯ニ入り連日恒風定吹シ快走ヲ続ケ二十三日正午ニハフサイパン島ノ北東微東距離約ニニ。理ノ位置ニ達シ充分余裕アルバキヲ考慮シ諸帆ヲ減ジ速力ノ調節ヲ計リ居タルニ二十五日朝来風力俄カニ衰ヘ風位漸次右転スルヲ以テ總帆ヲ展装ス。然ルニ一回転セル風位ハ二十六日午後北東ノ微風ニ復セシヲ以テ極力帆走ニテ同島ニ接近シ、二十七日午前五時四十五分黎明ト共ニ同島ノ北端ヲニ四。度距離約三〇哩ニ視認セリ此ノ頃ヨリ驟雨ト共ニ風力モ増強シ同十時三十五分トローリ岬一四八度ニ理半ニ航過シタルモ午前一時十分マニアガハレ島一六五度距離四分ノ三哩ノ地矣ニテ殆ンド無風トナリタルヲ以テ總帆ニテ總帆ヲ收メ機走ニ移リ同一時五〇分フサイパ

ンシ港ニ投錨セリ。本航海ハフサイパン島附近ニ接近スルニ從ヒ風力微弱トナリタル外日本近海、恒風帯共ニ適風ニ恵マレ船底ノ積淨ト相俟ツテ減帆シテ速力ノ調節ヲナシタルニモ拘ハラズ尚一日ノ早着トナレリ。海流ハ北緯ニ六度乃至ニ二度附近ニ於テハ南東微東流ヲ其レヨリ北緯一七度附近迄ハ微弱ナル偏西流ニシテフサイパン島東方ニ於テハ何レモ微弱ナル北流ヲ經驗セリ。

サイパン港碇泊

- 二月二十七日(木) 午後一五。着港山口支廳長代理時展務係長外一名來訪ス。
- 二十八日(金) 船長公式訪問、生徒普通海員半船半日宛上陸
- 三月一日(土) 職員生徒總員、普通海員半船彩帆神社參拜、公学校主催両船歡迎學藝會ニ出席、南洋興産製糖所、熱帯産業研究所等ヲ見学
- 二日(日) 生徒普通海員半船一日上陸前日ニ全ジ。午向角力試合(於フガラパン)公園對実業学校)夜高橋伏講席會。
- 三日(月) 生徒普通海員半船一日上陸前日ニ全ジ。午向武道試合(於武徳

對実業学校)

四日 (火) 総員在船、午前船艇帆走競争。午後「ターリギン」施行。
 五日 (水) 船長出港挨拶、生徒普通海員半舷半日宛上陸。
 六日 (木) 午前一時出港「テナアン」ニ向フ。

(一) 復航航要
 自 サイパン島 至 テニアン島

昭和十六年三月六日 午前十時半出港部署ニ就キ、諸帆ヲ順次展装シツ、同十時四十分板錨シ北東ノ疾風ニ駕シ「テナアン」ニ向フ午零時三十分「ファイブス」サ、ヒロシ 埼一ニ。後一埋半ニ並航、同一時十五分「ファイブス」サン、パバニ 埼四大度ニ分ノ一埋ニ達ス。之ヨリ逆風トナルヲ以テ総員ニテ諸帆ヲ收メ機走ニ移リ同一時四十五分「テナアン」港ニ到着セリ。
 テニアン碇泊

月	日	曜	行	事
三	六	木	午入港官民代表来訪 船長公式訪問	
七	金		午前総員作業午白生徒普通海員半舷上陸	
八	土		職員生徒総員製糖工場農場見学午白対専修学校武道試合夜官民主催	

日	月	事
九	日	座談会ニ船長及職員出席(於南嶼俱樂部) 普通海員自由半舷上陸 生徒半舷半日宛普通海員半舷自由上陸 午白対専修学校野球試合夜招待晩餐会 船長出港挨拶生徒普通海員半舷半日上陸 午白出港
一〇	月	

(二) 自 テニアン 至 東京(横濱経由)

三月十日 午白三時二十分「テナアン」港ヲ発シ横濱ニ向フ。東北東ノ軟風ヲ利用シ展帆被錨シ、同四時五分「ファイブス」サン、パバニ 埼三五度一埋ヲ並航、北々西方ニ航走シ、連日恒風強吹シ三月十四日正午ニハ北緯ニニ度一一分東経一四。度五五分ニ達シタリ。此ノ頃本州南方洋上ニ七六八耗程度ノ一高気圧東進シ来ル為メ一時無風状態トナリシガ之ガ通過後ハ東北東ノ適風ヲ以テ快走シ更ニ十六日東海ニ中心気度七五ニ耗程度ノ一低気圧及ビ揚子江流域ニ発シタル七六八耗程度ノ高気圧相前後シテ本船南方ヲ東進シタル為メ南々西乃至西北西ノ適風ヲ得テ北上シニ

十一日正午ニハ大王崎ノ南方距離約三七哩ニ達ス。之ヨリ北東方ニ航シ遠洲灘ヲ果
航、翌ニ十二日正午御前崎燈火三五。度一哩半ニ並航、同四時四十五分神子元燈
台ノ南方ニ達シタル頃突如風位北東方ニ較シタル為順次諸帆ヲ收メ、同五時三
十六分機走ニ移リ大島ト利島トノ間ヲ航シ同八時〇六分大島ノ南方大埋ヨリ機走ヲ
停止シ再び帆走ニ復シ左舷詰開ニテ南東方ニ航セシモ午後三時半右舷詰開ニ換ヘ北
北西方ニ航走セシニ同九時〇分野島崎ノ閃光ヲ四度距離約三三哩ニ視認セリ、斯クテ
翌ニ十三日ニ至リ天候垂化ノ兆ヲ認メタルヲ以テ午前七時四十分諸帆ヲ收メ機走ニ
移リ一路東京海灣ヲ北上、午前一時半第三、第三海堡間ヲ航過シ同二時五十分横浜港
沖合ニ碇錨假泊セリ、北東ノ風天候濛濛ナリ。
翌ニ十四日午後一時五十五分假泊錨地附近ニ於テ前後基準羅針儀ノ自差修正並ニ船
体運動力測定ヲ行ヒ同四時五〇分一旦碇錨後同六時〇〇分再び碇錨シ検査錨地ニ至
リ同六時四十五分碇錨假泊セリ。翌ニ十五日検査並ニ諸手續完了シ午前十時五十五
分横浜港ヲ発シ午後〇時四十分東京港ニ歸着シ第三十三次航海ヲ完了セリ。
本航海ハ出帆以來概々適風ニ恵マレ豫期以上ノ帆走成績ヲ收メ得タリ。天候亦良好
ニシテ入港教日前以外ニハ荒天ニモ遭遇セザリキ。

五 寄港地事情

本航海ノ寄港地ニ関シテハ特記ス可キ事項ナシ

六 學習記事

概況

本航ハ第十一期生初期ノ航海ニシテ寄港地ノ關係上及ヒ同比較的學習日數少カ
リシモ、気温概シテ快適、南洋方面ニ於テ暑氣ヲ感スルコトナク、且ソ
午前總員學習ヲ午後ハ作業ヲ課シ充分所期ノ效果ヲ收メ得タリ。尚研究生ニ對シ
テハ課題ヲ與ヘ自發的勉學ヲナス様指導セリ。
往航ハ東京出帆後四日目即チ二月十四日ヨリ週課表ニ則リ正規ノ學習ヲ開始シ約
二週間施行後フサイパンニ島ヲ經テフニアンニ着シ、復航ハフニアンニ上
陸ノ翌日即チ三月十一日ヨリ開始シ三月二十日迄十日間施行後三月二十二日及
十三日兩日前期審査ヲ行ヒタリ。
總學習時間約四週間ナリ。

三 學習週課表及ビ擔任

士	全	木	水	火	月	暹時
沈濯、大掃除	測器、氣象（次第一等運転士）	海運（一等運転士）	操練	英語、運用術（二等運転士）	航海術（次第三等運転士）	第一時
午后、航海実習、武道	機関学（機関長）	衛生（船医）	学习又ハ講話	応力（機関長）	無線（首帯通信士）	第二時

摘要

- 一、操練ノ日ノ学习ハ水曜日入レ替フ、
- 一、学习ハ天候其ノ他已ムヲ得ガル外總員同時ニ行フ。
- 三、学习要項
 - 船長講話（二時間）
 - 応用力学（三時間）
 - 一、力ノ合成及分解
 - 二、力ノ能率
 - 三、重心

○ 英語（一時間）

一、航海日誌記入法

○ 航海術（四時間）

- 一、ジョンソン式船位決定法
- 二、沿岸航法
- 三、索星法
- 四、転輪羅針儀ノ原理

○ 運用術（二時間）

一、帆船当直法

二、ウアニンシングニ就テ

○ 機関術（四時間）

内 燃 機 関

○ 氣象学（三時間）

一、颱風

二、颶風

三、本航海方面ノ氣象並海流略説

○ 海運（四時間）

一、海上運送ノ経営

二、船舶及噸数

三、南洋群島事情

○ 法規（一時間）

船員法

○ 無線電信 (二時間)

一、電信法 二、醫料並ニ遭難通信ニ就テ

○ 船舶衛生 (三時間)

一、衛生學總論、並ニ海員生活ノ特異狀態 二、傳染病 三、船舶ノ消毒法

○ 航海突習

機會アル毎ニ沿岸航法等ヲ課ス

四、天測

今航八寄港地ノ關係上練習回数稍ク少カリキ、生徒初期ノ航海ナレハ旧式船位決定法ニ依リ計算ノ基礎ヲ確立スルヲ主眼トス。

天測表

種別	天測員			觀測時	擔任者
	太陽	正午	午後		
午前	正午	午後	一、直 / 全員	午前八時	二等一等運轉士
午後	正午	午後	二、直 / 全員	午後三時五分	同 右
午後	正午	午後	三、直 / 全員	午後三時五分	次席三等運轉士

恒遊星	自差測定	適夕	直刻	次席一等運轉士
一、二直 / 全員	一、直 / 全員	適夕	直刻	同 右

生徒一人当リ練習回数次ノ如シ

種別	前	大	後
正午位置算法	一	三	一
午前觀測	三	一	一
午後觀測	一	一	一
恒遊星	六	二	三
合計	三〇	七	五

自差算法ハ当直員ヲシテ機會アル毎ニ練習セシム

五、見學、講義等

見學、講義等
○ 小学校、學藝會 (於カイパン)

- (ロ) サイパン製糖工場 (同 右)
- (ハ) 熱帯産業研究所 (同 右)
- (ニ) テニアン製糖所 (於テニアン)
- (ホ) 農場 (同 右)
- (イ) マリアナ群島事情 (於サイパン) 山口支廳長
- (ロ) 支那事変後軍談 (サイパン破泊中) 高橋画伯

概況

今航海ハ全航程ヲ通ジ常ニ順風ニ恵マレタルヲ以テ機走時間少ナク東京湾出入以外ハ殆ンド帆走ノミニシテ機走時間一六時四八分其ノ距離一三七哩ニ過ギカリキ第三回定期検査受檢工事後ノ機関状態ヲモ充分察知シ得サル程機関ノ使用少ナシト虽モ三月二十四日横浜港外ニ於ケル急停及速力試験等ノ結果ヲ綜合スルニ大体ニ於テ良好ナリト断定シ得ベシ。別表ノ如ク失脚往航一、九分復航二七、三分平均ニ三七分ハ船底掃除直後トシテ大ニ過ギル傾アルモ之ハ無風時ノ機走ナク常ニ逆風時ノ機走ト「サイパン」ヲテニアン入港時ノ短時間中ノ機走ニテ計算上正

確ラ期シ難キコトニ依ルモノナリ。入渠工事中補汽缶ノ補修「リヤット」トシムルノ新替修理ヲ施シ又缶内ニ蝕不備ヲ新設シタルニ公汽缶ノ状態頗ル良好ニシテ之レ迄出港時揚鈎機使用ニ當リ常ニ汽圧ノ下降ヲ示シタル反シ今航海ハ汽圧ノ下降者シカラズシテ汽缸モ亦容易ナリキ。

八、衛生状態

出港前虫垂炎ト脚氣ノ患者ニ名ヲ下船セシメタリ。出港當時ハ寒氣割合ニ嚴シカリシ為メ軽度ノ感冒並ニ胃腸障礙、或ハ動搖ニ依ル船暈等起リシモ特筆スベキ程ノ事ナク往航ヲ続ク。途中ハ輕症ノ脚氣症狀ヲ呈セル者、紙邪ヨリハ上部気道ノ炎症ノ輕微ノ中耳炎ヲ併発セルモノ、扁桃腺炎ヲ発セシモノ、齒痛ヲ訴ヘシモノアリシガ日余ニシテ快癒セル程度ノモノナリ。天候其ノ他ノ気象條件ニ恵マレ順調ニ航走ヲ続ケ二月二十七日彩帆島ニ着港ス。彩帆島ニハ變フベキ悪性傳染病ノ流行ナク同島破泊中ハ一員元氣ニテ日々過セリ。三月六日彩帆ヲ順風ニ送ラレテ出航即日元氣ニテ隣島天仁守へ赴ク。天仁守ニモ亦悪疫ノ流行ヲ聞カズ、總員元氣ナリ。

三月十日適風=東シ天仁守ヲ出港セシ後モ天候至極良好ニシテ依然乗員ハ健康状態ヲ保持シ特記スベキ疾病ヲ認メズ。一ニノ感冒或ハ脚氣様症状ノモノノミナリ。本航海ヲ通ジテ之ヲ見ルニ、気流、気温且ツ気濕モ亦好適ト言フニ適ナク氣象状態ハ全ク恵マレタリ。本航海日数ハ又短期間、且總員一同心身共ニ健全ニシテ能ク自重自愛シタリ。又生糧品保存状態モ極シテ良好ニシテ新鮮ナル生糧品ノ不足ハ又之ヲ見ズ等、斯ク諸多ノ好條件ニ恵マレ初メテノ航海ニモ不拘、生徒モ其他ノ乗員モ總テ顧慮スベキ疾病ノ発生無ク元氣旺盛ニ航海ヲ終始スルヲ得タリ。

体重表

職名	往航員数	復航員数	往航時平均	復航時平均	増	減
生徒	五一	五一	六〇、九二	五九、七八		一、一四
普通海員	三九	三九	五七、五三	五六、一八		一、三五
合計	九〇	九〇	五九、二三	五七、九八		一、二五

九、通信概況

今次航海ニ於ケル通信状況ハ往復航共概シテ良好ニ終始セリ。

十、總括

本航海ノ成績ヲ要約スレバ左ノ如シ

- 一、航海。往復航共極メテ順調ニシテ各港共一日乃至二日ノ早着トナリタリ。
- 二、練習。第十一期生最初ノ航海ニシテ生徒何レモ緊張シ航海日数ノ僅少ナリシニモ拘ラズ練習ノ效果顯著ナリ。
- 三、機関状態。常ニ良好ニシテ使用時間僅少ナリシコト前例ナシ。
- 四、衛生状態。極メテ良好ニシテ特記スベキ患者ナシ。
- 五、通信状態。常ニ良好ニシテ其ノ機能ヲ完全ニ發揮セリ。
- 六、火ニ主要事項ノ記録ヲ添付ス。

第三十三次航海記録

事項	往航		航置	復航		航置
	記録	月日時		記録	月日時	
最高	七六九〇 概	二、一七、二〇	二七度 東北	七六六〇 概	三、一三、一二	二〇、五度 東北
最低	七五二、五 概	二、一〇、一二	一五〇度 東北	七五四、〇 概	三、一八、〇四	一四二度 東北
平均	七五二、五 概	二、一〇、一二	東京港入口	七五四、〇 概	三、一八、〇四	一三六度 東北

気温 最高	33.0 度	34.1 度	サイパン
気温 最低	31.0 度	31.0 度	東京港入口
水温 最高	28.0 度	31.5 度	サイパン
水温 最低	0.0 度	21.0 度	東京港入口
最強 風	北北東 七	21.3 度	22.2 度 東北
最大 波浪	High Sea	同	24.6 度 東北
最大 傾斜	3.0 度	31.3 度	31.1 度 東北
概乏 最大 行程	18.9 哩 平均 7.8 九	21.1 度	31.1 度 東北
概乏 最大 速力	九.5 節	21.3 度	34.6 度 東北
気温 最高	33.5 度	33.8 度	テニアン
気温 最低	25.0 度	33.5 度	横 茨
水温 最高	28.5 度	31.0 度	テニアン
水温 最低	7.0 度	32.4 度	横 茨
最強 風	西北西 七	31.8 度	28.6 度 東北
最大 波浪	High Sea	同	23.6 度 東北
最大 傾斜	3.5 度	31.8 度	同 右
概乏 最大 行程	15.8 哩 平均 6.5 五	31.7 度	同 右
概乏 最大 速力	10.5 節	31.7 度	27.7 度 東北
		31.5 度	33.8 度 東北

練習船海王丸第二十三次航海航跡圖



航海統計

東京—サイパン—テマーン—横浜—東京
總航海時間 30 ^h -07 ^m -20 ^s
總航程 3327'
平均速力 4.58
内訳
帆走時間 29 ^h -19 ^m -30 ^s
航程 3190'
平均速力 4.50
機走時間 0 ^h -17 ^m -50 ^s
航程 137'
平均速力 8.16

- 凡例
- 実測正午位置 日附
 - ⊙ 推測正午位置
 - ⊙^E 正午風位及風力
 - 帆走航程
 - ↑ 流向

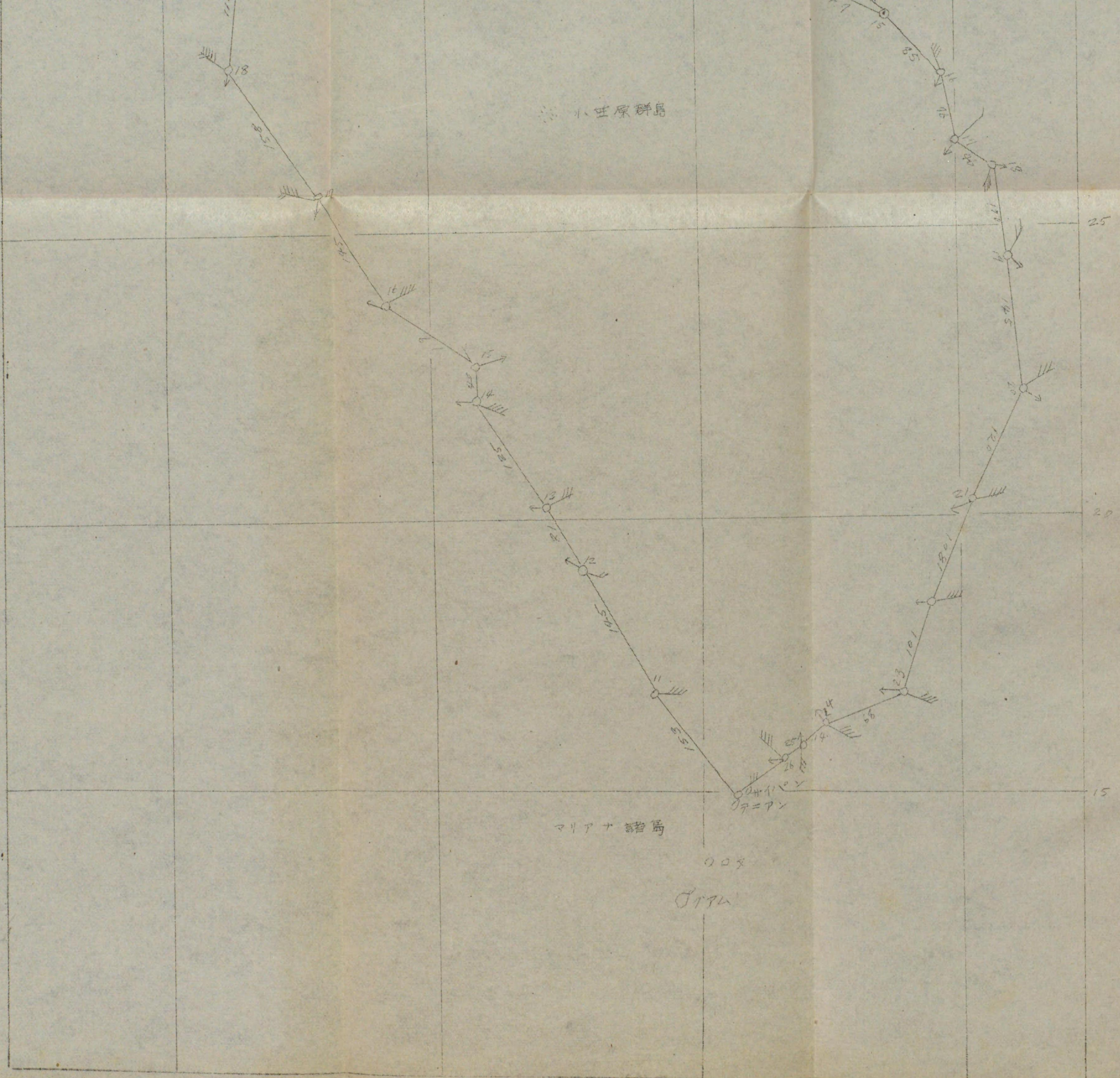
小笠原群島

小世原群島

マリヤナ諸島

00x

0172



昭 和 十 六 年 五 月 二 十 四 日

自 昭 和 十 六 年 五 月 二 十 四 日
 至 昭 和 十 六 年 八 月 二 十 三 日

海 王 丸 第 二 十 四 次 航 海 報 告

各 港 名	着 陸 日	出 發 日
東 京	昭 和 十 六 年 五 月 三 十 日	昭 和 十 六 年 五 月 二 十 四 日
廣 門	七 月 一 日	七 月 九 日
佐 保	七 月 二 日	七 月 二 日
上 海	七 月 二 日	七 月 二 日
橫 濱	八 月 二 日	八 月 二 日
東 京	八 月 三 日	八 月 三 日

目次

一、乘員名簿	一四六頁
二、諸表	一五〇頁
(A) 各港着陸日時表	一五〇
(B) 航海摘要	一五一
(C) 各港出帆規狀表	一五三
(D) 航海一覽表	一五五
三、訓練表	一六一
四、航海記事	一六三
五、寄航地事情	一七六
六、學習記事	一七七
七、機関狀態	一八二
八、衛生狀態	一八三
九、通信狀態	一八六
一〇、總括	一八八

一、乘員名簿

職	員(十四名)
船長	西澤貞徳
一等運転士	横田利雄
二等運転士	西田一男
三等運転士	前川繁俊
機関長	勝田勝郎
二等機関士	吉田利八
事務長	中田宇作
船醫	田四郎
首席通信士	藤平義幸
次席通信士	本田宗四郎

便 乘 者 講 師 丸 山 蕪 (東京—長崎間)

生 徒 (五十一名) (一〇) 八十期生 (一二) 八十二期生 他八十一期生
富山商船学校 (八名)

(一〇) 石野 泰男 吉川 勲 葵 武夫 内井 建二
石 灰 義 雄 網 谷 清 吉 大 脇 鉄 夫 天 田 辰 雄

鳥羽商船学校 (七名)
(一〇) 合 山 老 永 岩 茂 宮 増 一 郎 西 岡 光 雄
大 島 商 船 学 校 (七 名) 中 村 正 司 前 田 博 松 岡 清 三 郎

鹿兒島商船学校 (七名)
松 井 勲 坂 本 次 郎 左 衛 門 井 上 義 光 石 崎 雅 三
中 村 輝 星 出 徹 朗 看 水 正 川 畑 義 徳

吉 元 正 義 遠 矢 良 和 村 友 豊 吉 川 畑 義 徳
池 英 平 吉 山 田 純 義 (三) 相 良 一 郎

廣島商船学校 (九名)

皆 根 生 雄 久 門 正 臣 利 田 諭 古 川 陽 曹
長 畑 光 裕 金 光 若 新 川 幸 登 岡 敬 莊
大 成 忠 司

粟島商船学校 (六名)

三 野 武 徳 増 田 清 一 深 尾 光 政 丸 岡 裕
小 野 忠 (三) 本 川 義 市

弓削商船学校 (四名)

八 塚 元 一 菊 池 勝 月 原 計 一 岡 田 俊 作
桂 嚴 彦 高 橋 秀 則 永 井 三 郎

朝鮮總督府遞信局高等海員養成所 (三名)

普通海員 (四十一名)

水 夫 長 三 浦 長 一 郎 水 夫 次 長 木 本 一 義 大 工 丘 野 久 男
航 取 梯 原 敬 夫 航 取 渡 田 弘 航 取 石 崎 三 之 助

看護手 碇石栄太郎 水夫 柳 國雄 水夫 青木安太郎
 水夫 鈴木通隆 水夫 中野富正 水夫 伊集院 公利
 水夫 高橋千代名 水夫 鈴木素男 水夫 若林 光一郎
 水夫 溝口益男 水夫 鈴木 一 水夫 吉元 義道
 水夫 新木富男 水夫 新 兼正男 水夫 川 又 老 一
 水夫 青木恒男 水夫 菅 京 進 水夫 太 田 進
 火夫長 龍口幸太郎 油 差 坂元喜之助 油 差 鈴木 新太郎
 火夫 河野 晃 火夫 相沢武司 火夫 大崎 勇

司厨長心得 五十嵐貞二 一等料理人 坂口久次 臨時一等料理人 鈴木 修
 料理人 大坂八助 料理人 井坊順一 料理人 田中実
 料理人 鷗 嗣修弘

一等給仕 酒井重次 給仕 辰本 明 給仕 三宅甚之助
 臨時給仕 伊藤 登

備考 水夫若林光一郎、同 菅原進 一等給仕酒井重次、何レモ長崎
 二於下船又

二、諸 表
 (4) 各港着発日時表

港名	入港日 時	出港日 時
東京	昭和十六年六月三十日午後七時十分	昭和十六年五月二十四日午前七時三十分
厦門	同	同
長崎	同	同
佐世保	同	同
上越	同	同
横濱	同	同
東京	同	同

昭和十六年六月三十日午後七時十分
 七月十六日午後七時十分
 七月二十二日午後二時十分
 七月二十九日午前七時十分
 八月二十二日午後六時十分
 八月二十三日午前七時四十分

昭和十六年五月二十四日午前七時三十分
 七月九日午前七時三十分
 七月二十日午前六時五十五分
 七月二十六日午前六時四十分
 八月五日午後〇時三十分
 八月二十三日午前九時四十分

(理) 均 平 時 每		(理) 均 平 日 一						(理)					
上海	佐世保	長崎	廈門	東京	總平均	上海	佐世保	長崎	廈門	東京	總計	橫濱	東京
一、九〇	四、六二	一	四、四六	三、一〇	七、二二	四、五、六	一、一〇、九	一〇、七、〇	七、四、三	三、五、三	六	一	一
六、〇五	八、九二	七、七八	五、七九	八、八二	一、六九、四	二、二五、〇	一、四、五、二	一、八、六、七	一、三、八、九	二、一、一、七	二、〇、二、四	一	一
三、二九	八、〇七	七、七八	四、八七	三、四七	九、一、四	二、二五、〇	七、九、〇	一、八、六、七	一、一、六、八	八、三、三	五、五、六	〇	一

離 距 走 航		時 日 海 航					要 航 海	
上海	佐世保	長崎	廈門	東京	總計	橫濱	東京	各 港 間
四	五	一	五	二、四、八〇	四、八、日、二、一、時、五、九、時	九、日、二、一、時、三、九、分	〇、日、一、時、四、一、分	三、日、〇、八、時、五、五、分
七	二	二	三	四、九、四	一、二、日、〇、五、時、三、三、分	〇、日、〇、二、時、〇、分	五、日、〇、三、時、〇、一、分	五、日、〇、三、時、四、九、分
一、一、七、九	四、七、六	四、二	八、七、四	二、九、七、四	六、一、日、〇、三、時、三、二、分	〇、日、〇、二、時、〇、分	一、五、日、〇、〇、時、四、〇、分	二、日、〇、七、時、〇、五、分
								帆 走
								機 走
								合 計
								三、五、日、一、七、時、三、七、分
								七、日、一、一、時、四、五、分
								〇、日、〇、七、時、〇、五、分
								二、日、一、二、時、二、五、分
								一、五、日、〇、〇、時、四、〇、分
								〇、日、〇、二、時、〇、分
								六、一、日、〇、三、時、三、二、分

(B) 航海摘要

出帆年月日	職員	生徒	普通海員	便乘者	合計	吃水			排水噸數	燃料噸數	飲料水合計	燃料油	改裝用石炭
						前部	後部	平均					
昭和十六年五月二十四日	一四名	五一名	四一名	一一名	一〇七名	五米六〇	六米一〇	五米八六	三、六〇〇	一米〇二	四七一噸	一二〇噸	四四噸五
同年七月九日	一四名	五一名	四一名	一一名	一〇七名	五米五〇	五米七〇	五米六〇	三、三九〇	〇米八八	二九八噸	一〇三噸五	三四噸五
同年七月二十二日	一四名	五一名	三八名	七八名	一八一名	五米六〇	五米九五	五米七七五	三、五三五	〇米九五	四五六噸	九一噸七	三〇噸
同年七月二十六日	一四名	五一名	三八名	一一八名	二二一名	五米五八	五米九二	五米七五	三、五二〇	〇米九五	四四二噸	九〇噸二	二九噸五
同年八月五日	一四名	五一名	三八名	一〇三名	一〇三名	五米六三	五米九三	五米七八	三、五四〇	〇米九七	四〇〇噸	八〇噸二	二七噸五

(C) 各港出帆現狀表

考備	要項	定泊日數					總平均
		厦門	長崎	佐世	上海	橫濱	
燃料油消費量	四一、一九噸	八日一三時一五分	五日一四時四五分	三日一六時四〇分	七日〇一時三〇分	〇日一五時〇分	三、〇一
飲料水消費量	二二八噸	二五日〇九時一〇分					
儲水消費量	三四噸						
往航		數日泊假					
復航		厦門港外	吳淞候發船地	中河原浦	根岸灣		九、三八
合計		一日一四時〇三分	〇日一五時五五分	一日三〇時四五分	〇日〇八時四五分	四日一四時二八分	七、〇六
合計		六三、六一噸	二九二、八噸	四四、二噸			九、三八

固定銅屑	バラスト	六〇噸	八	全	上	全	上	全	上
海水	バラスト	一	一	一	一	一	一	一	一
糧食	食	三〇噸	一八噸	一	一	一	一	一	一
水	水	一五噸	一噸	一	一	一	一	一	一

備考 前託ノ外倉庫品其ノ他約一三〇噸アリ

(D) 航海一覽表

往 航 自東京 至厦門

*印ハ機走トス

月日	正午		位置	航時	海程	針路	航程	長離	風向	風力	天候	気圧	気温	水温	一日ノ主要風向	海流	流程
	緯度	経度															
5-24	35-36	139-47	K0-47	K0-30	不定	K	3	E/S	2	bc	761.5	21.0	20.0	ESE	2	海流	区域
25	34-17	140-42	*15-54	*17-43	155°	K	49	SS E	5	0	757.0	21.5	22.0	SS E	5	不	24.3
26	33-34	140-57	23-56	23-56	136°		68	Cal. W	7	"	756.0	20.0	21.0	down	"	不	
27	33-10	142-06	23-56	23-56	110°		88	Sou/S	7	"	750.0	22.0	20.5	Sea	7		
28	32-41	142-55	23-56	23-56	121°		44	West	1	"	752.5	20.5	20.0	Sea/W	4		

29	32-38	145-14	23-51	23-51	95°		118	Sea	2	C	761.0	21.5	20.0	Sea	2	47°	79.0
30	32-05	144-54	24-01	24-01	210°		51	NE/W	3	"	758.5	19.5	20.0	ENE	3	不	明
31	31-38	144-53	24-06	24-06	181°		27	E/S	2	"	764.0	20.0	20.0	ESE	"		
5/1	30-20	143-52	24-08	24-08	214°		118	SSW	3	bc	760.0	21.5	20.5	SSW	4		
2	29-04	145-07	23-53	23-53	139°		106	SW/W	4	bc	758.0	24.0	22.0	Sea	"	194°	14.4
3	27-29	146-25	23-54	23-54	144°		117	West	3	"	759.5	22.5	25.0	West	3	90°	4.5
4	26-53	146-00	24-02	24-02	212°		42	E/S	2	C	760.5	26.0	25.0	ESE	2	294°	4.9
5	26-22	145-33	24-03	24-03	218°		39	SE	"	0	759.5	24.5	25.0	SE	"	164°	19.0
6	23-18	143-46	*1-36	*22-30	208°		44	S/E	3	bc	759.5	31.0	28.0	Sea	4	280°	5.6
7	22-27	144-34	23-58	23-58	139°		68	"	"	"	760.5	30.0	29.0	South	3	151°	13.7
8	22-12	144-13	24-00	24-00	232°		24	SE	4	8	762.0	30.5	29.0	S/W	"	94°	31.5
9	22-07	143-35	24-03	24-03	249°		37	SE/S	2	bc	765.0	31.5	29.0	SE/E	2	130°	10.9
10	20-57	142-34	*17-04	*7-00	225°		32	ESE	"	bc	765.0	30.0	29.0	ESE	"	14°	26.8
11	20-05	141-33	24-05	24-05	228°		77	SE/E	3	"	763.5	30.0	29.0	SE/E	3	285°	7.8
12	19-24	140-19	24-06	24-06	240°		81	SE	2	8	762.0	31.5	29.0	SE	2	166°	11.4
13	19-07	139-19	24-04	24-04	253°		59	SE/S	"	"	761.0	31.0	29.0	"	"	291°	11.1
14	19-06	138-15	24-04	24-04	260°		58	SE	1	bc	762.5	30.5	30.0	SE	"	306°	15.2
15	18-40	135-18	24-00	24-00	257°		115	S/W	3	"	763.0	30.5	30.5	South	3	304°	15.1
16	18-34	134-45	24-07	24-07	266°		37	SE	"	bc	762.0	31.0	29.5	SE/S	"	296°	18.0

月日	正午		位置	航速	航向	航程	針路	航程	風向	風力	天候	氣壓	氣溫	水溫	一日風向	主要風力	潮流	航程
	緯度	經度																
17	18-17	133-28	24-06	257	75	SE/E	3	6	7610	30.5	270	SE	2	52	49			
18	18-05	132-46	24-03	251	42	ESE	"	"	7590	300	300	SE/E	3	146	56			
19	18-14	131-42	24-04	280	62	SE/S	2	"	7610	31.0	300	SE/E	2	47	13.1			
20	18-22	130-07	24-06	275	91	"	"	"	7600	31.0	300	"	"	25	180			
21	18-09	128-21	24-07	263	101	ESE	4	6	7600	290	295	ESE	3	30	57			
22	18-21	126-31	24-08	276	106	SE/E	2	0	7590	26.5	290	"	4	木	晴			
23	18-51	124-11	24-10	283	136	SE/S	3	6	7600	30.5	300	SE	3	309	220			
24	19-27	122-26	24-08	290	105	SE/S	2	"	7590	30.0	300	SE/E	"	100	58			
25	20-11	120-52	24-05	296	99	SE/S	2	6	7590	30.0	300	SE/E	2	331	125			
26	20-42	119-53	24-05	299	64	calm	"	"	7590	32.5	300	E/S	"	328	250			
27	21-28	118-58	24-03	312	68	E/W	2	"	7540	31.5	300	E/W	"	335	108			
28	22-21	117-45	24-07	308	43	WNE	3	6	7525	32.0	300	E/W	3	277	159			
29	展	展	展	308	127	SSE	1	"	7550	330	280	SE	3	潮流	區域			
30	"	"	"	"	6	SE	4	"	755.5	28.5	280	"	4	"	"			
31	"	"	"	"	3	S/E	5	0	754.0	28.0	280	"	"	"	"			
2	"	"	"	"	3	SSW	3	6	7590	30.0	280	"	"	"	"			
3	"	"	"	"	3	calm	"	"	756.0	31.0	290	"	"	"	"			

日	時間	位置	航速	航向	風向	風力	天候	氣壓	氣溫	水溫	一日風向	主要風力	潮流	航程
4	"	"	"	"	"	6	6	7530	34.0	300	"	"	"	"
5	"	"	"	"	SE	1	6	7540	28.5	290	"	"	"	"
6	"	"	"	"	SE/S	3	"	756.0	26.5	290	"	"	"	"
7	"	"	"	"	SSW	4	0	7590	29.0	290	"	"	"	"
8	"	"	"	"	calm	3	6	7590	28.5	280	"	"	"	"

自廈門至長嶼

日	時間	位置	航速	航向	風向	風力	天候	氣壓	氣溫	水溫	一日風向	主要風力	潮流	航程
9/9	24-21	118-40	3-48	木	SSW	4	6	7590	27.5	280	SSW	4	潮流	區域
10	26-01	121-10	24-00	54°	SW/W	5	6	7590	28.0	280	SW	5	46°	318
11	27-49	123-29	23-51	49°	WSW	6	R	7545	28.0	280	SW/W	6	48°	120
12	28-44	124-58	23-55	48°	ESE	2	0	7530	28.5	280	SW	2	木	晴
13	28-54	125-48	23-55	81°	W/W	3	6	752.5	24.5	285	SW	3	113°	153
14	29-33	125-18	24-03	326°	ESE	5	7	7500	240	280	SW	5	木	晴
15	30-37	126-06	23-59	33°	N/E	4	K	7520	240	280	SW	4	332°	147
16	32-03	129-09	23-49	61°	WNE	3	"	755.5	240	280	SW	3	346°	122
17	長	嶼	6-40	木	W/W	1	6	7590	30.0	260	SW	1	"	"
18	"	"	"	"	NE	1	0	758.5	23.5	245	"	"	"	"
19	"	"	"	"	"	"	6	755.0	25.5	250	"	"	"	"
20	"	"	"	"	"	"	"	755.5	31.0	240	"	"	"	"
21	"	"	"	"	calm	"	6	757.0	32.5	255	"	"	"	"

自 長 崎 至 佐 世 保

月日	正午位		航程	強弱	斜路	航程	風向	風力	波高	氣壓	氣溫	水溫	一日/風向	主要風力	潮流	潮流區域
	緯度	經度														
22	33-03	129-32	*5-05			*29	N/W	3	0	756.0	29.0	25.0				
23	佐世保						SE	1	0	756.5	28.0	26.0				
24	"						SE	"	0	758.0	31.0	26.0				
25	"						North	1	0	755.0	29.0	26.6				

自 佐 世 保 至 上 海

26	32-39	129-09	*5-20		不定	*45	North	3	0	765.0	25.0	25.0			潮流	區域
27	31-52	125-01	*22-43		26.5	*219	NE/E	"	0	753.0	24.0	25.6			278	6.9
28	30-59	122-10	*9-54		不定	*45	NW	1	0	757.0	30.0	26.0			無	
29	上	海	*7-05		"	*111	Cal m	1	0	756.0	30.6	28.0				
30	"	"	"		"	*56	"	"	"	759.0	28.0	28.6				
31	"	"	"		"	"	"	"	"	758.0	29.0	28.6				
8/1	"	"	"		"	"	"	"	"	759.0	27.0	27.6				
2	"	"	"		"	"	"	"	"	758.5	30.0	28.0				
3	"	"	"		"	"	"	"	"	759.0	30.5	27.0				
4	"	"	"		"	"	"	"	"	759.0	30.5	27.0				
5	"	"	"		"	"	"	"	"	758.0	31.0	28.6				

自 上 海 至 東 京 經 由 橫 濱

6	31-29	123-12	*7-30		不定	*58	SE/E	3	0	758.0	29.5	22.0			3.55	10.4
7	31-16	124-01	23-57		10.7	44	WE/E	6	0	755.0	29.0	22.0			100	6.1
8	31-18	124-49	*4-28		不定	*80	East	8	0	745.5	28.0	28.0			不	晴
9	31-33	125-40	*19-32		70	*59	SE	7	0	751.0	26.0	22.0			7	
10	32-21	126-47	*17-45		50	*59	SE	7	0	752.0	27.0	22.0			7	6.0
11	31-38	128-00	*13-51		12.5	*33	SW/S	1	0	755.0	26.5	22.0			8	12.0
12	31-25	128-04	23-55		16.2	75	WNW	1	0	755.0	26.5	22.0			2	7.4
13	中野康彌		24-00		不定	14	S/E	"	0	759.0	30.0	22.0			"	9.5
14	"		*10-36		不定	*92	NE/N	2	0	753.0	30.0	22.0			3	
15	31-28	129-39	*2-28		不定	*28	N/E	3	0	748.0	33.0	28.0			3	潮流區域
16	30-58	130-31	23-56		12.3	56	NW/N	2	0	749.5	28.5	22.0			3	
17	31-00	131-15	23-59		87	*39	W/SW	2	0	755.0	28.0	22.0			2	
18	31-32	132-20	*4-00		60	*34	SE	1	0	758.0	31.0	22.0			1	
19	31-56	134-04	*19-56		95	*30	Cal m	1	0	760.0	32.0	28.0			2	20
20	32-05	134-47	*8-10		76	*32	E/N	1	0	758.0	25.0	26.0			2	22.4
21	33-50	136-59	23-57		47	*38	SE/S	2	0	758.5	30.0	28.0			2	20.7
22	橫濱	海外	*19-58		47	*11	ESE	"	0	760.0	30.5	28.0			2	21.0
23	橫濱	海外	*21-40		47	*142	E/S	1	0	763.0	35.0	28.0			1	24.2
25	東京	東京	*2-00		"	*15	E/N	2	0	761.0	28.0	22.5			1	18.9

三、訓練表

月日	曜	自時	至時	所	事	参加人員
昭和十六年 五月二十九	水	午前八時五十分	午前九時十五分	火災操練		總員
同	同	同	同	總端艇部署操練		同員
大、五	水	同	同	海鎗、組立實習		同員
大、一	水	正	同	運動會		同員
大、一四	土	午後二時三十分	同	溺者救助操練		同員
大、二六	木	午後七時五分	同	第五号艇ヲ降下シ溺者ニ撥シタル救命環ヲ收得帰船セシム		同員
大、一八	水	午前九時五分	同	總端艇部署操練		同員
同	同	同	同	總端艇六隻ヲ降下シ帆走ニテ艇隊運動ヲナサシム		同員
大、二六	木	午後七時五分	同	防空部署操練		同員
七、二〇	日	午後三時三十分	同	帆前操練		同員

七、二六	土	午後七時十五分	同	海ノ記念日ニ就キ海洋少年團並ニ一般ノ觀覽ニ供ス。赤鷲見學スルモノ一万余ニ達ス(於長崎)		当直員
七、二七	日	午前九時五分	同	防空部署操練		總員
同	同	同	同	火災操練		同員
同	同	同	同	總端艇部署操練		同員
七、二八	月	午前九時五分	同	便衣中ノ與重學生勤勞報告団隊員ニ見學並ニ参加セシム		同員
同	同	同	同	溺者救助操練		同員
八、一七	日	午前九時五分	同	第五号艇ヲ降下シ溺者ニ撥シタル救命環ヲ收得帰船セシム		同員
同	同	同	同	防空部署操練		同員
同	同	同	同	溺者救助操練		同員
同	同	同	同	照用用トバラシエトレヲ発見、第六号艇ヲ降下シ之ヲ收得帰船セシム		同員

註、本航ハ帆前操練トシテハ一回ナリシモ操船ノ必要上總員若シクハ当直員
ニテ上手廻シ、下手廻シ、展帆收帆等ノ機會多ク尚數回颯風ニ遭遇シタ
ルタメ荒天準備ノ機會多ク却テ訓練上効果アリタリト信ズ

四、航海記事

往 航 概 要

自東京至厦門

昭和十六年五月二十四日船長外職員十四名生徒五一名普通海員四一名使乗者
一名計一〇七名乗組ミ東京港ヲ発シ第二十四次航海ノ途ニ就キ六月三十日厦門
着七月九日同地発七月十六日長崎着同二十一日同地発同日佐世保着同七月二十
六日同地発七月二十九日無事上海ニ到着シ往航ヲ完了セリ
五月二十四日午前十一時半芝罘岸壁ヲ解纜シ東京海峯ヲ南下、午後五時五十四
分野島崎ヨリニ〇八度八理ニ於テ機関ヲ停止シ折柄ノ偏東輕風ニ駕シ帆走ニ移
リ南々東方ニ航走セリ、爾來日本南海ヨリ東北東乃至東ニ進行スル諸低氣圧並

ニ不連續線ノ影響ニ依リ兩天ノ日多ク且ツ南々東乃至南西ノ逆風ヲ受ケ屢々
南ヲ換ヘ東航シツ、南下シ、二十九日正午ニハ北緯三十二度東經一四五度一四
分ニ達シタリ

然ルニ此ノ頃フミッドウエール附近ニセセ〇耗ノ高氣圧階臨シ其ノ一端ハ小笠
原附近ニ達シタル為メ風位ハ依然東南東乃至南西ニシテ霧ヲ伴ヒ溼潤ナル天候
ヲ續ケ六月五日正午新ク北緯ニ六度ニ二分東經一四五度三三分ニ達シタルノミ
而モ風力尚微弱ニシテ已ニ往航ノ三分一ノ日數ヲ費シタルヲ以テ急速ニ南下
シ適風ヲ利用スルヲ得策ト考ヘ、同日午後一時〇六分總帆ヲ絞リ機走ニ移リ南
西方ニ航走ス、翌六日午前十一時三十分南緯東ノ軟風トナリタルヲ以テ機関ヲ
停止シ帆走ニ復シタルモ風力再ビ微弱トナリタルヲ以テ航程進歩セズ、
依テ九日午後一時〇分再ビ機走ヲ開始セシニ夕刻ニ至リ所長ヨリ葦島ヲダウア
オレ寄港不許可トナリタル旨通知アリタルヲ以テ、同午後八時機関ヲ停止シ帆
走ニ復シ寄港地ヲ厦門ニ変更シタキ旨電請許可ヲ受ク、
斯クテ南乃至東南東ノ微弱ナル恒風ニ南下シツ、漸次西航シ、六月十三日ニハ
北緯十九度〇七分東經一三九度一九分ニ達ス、之ヨリ適風ヲ得テ一路西航シ六

月二十四日午後六時一八分、バリンタン島ヲ一七度一三理半ニ航過シ南支那海ニ入ルヤ東北東ノ適風アリ、二十八日午前七時ニハ名湾堆南方ニ達スルヲ得タリ。之ヨリ先、菲島ノ東方海上ニ七四〇兆ノ颯風発生シ北西ニ進行スルニ從ヒ漸次発達シ、二十八日午前六時ニハ呂宋ノ北端ニ達シ中心示度七三〇兆トナリ本船其ノ進路上ニ在リ。漸次天候悪化スルヲ以テ避航スルノ必要ヲ認メ午前七時〇七分諸帆ヲ絞リ機走ニ移リ北上。翌二十九日午前零時半東旋島燈火一六度一理半ニ航過シ同午前二時十分厦門沖合担架燈名ノ南東ニ假泊避難セリ、然ルニ夕刻ニ至リ南東ノ長溝ヲ生ジタル為メ厦門外港ニ碇錨、翌三十日午後七時十分内港ニ投錨。厦門ニ安着セリ。本航海ハ概シテ適風ニ恵マレズ、如フルニ颯風避航ノタメ機走シタルヲ以テ機走航程稍々多シ。

海流ハ北緯一九度東經一四〇度乃至一三五度間ニ於テハ概シテ西北西ノ強海流ニシテ名湾ノ南方ニ於テハ北西流ヲ経験セリ。

厦門 碇泊

月	日	晴	行	事
六、三〇	月	火	午後入港	
七、一	火	興亞奉公日、強風高浪ノ為陸上ノ交通不能		
二	水	船長公式訪問、生徒普通海員半艇半日宛自由上陸		
三	木	職員生徒総員普通海員半艇遊跡及コロンヌ島見学		
四	木	前日全		
五	土	午前アツトホム準備、午後アツトホム		
六	日	強風高浪ノ為陸上トノ交通不能		
七	月	支那事変勳章四週年記念日勅語奉讀式挙行		
		生徒普通海員半艇上陸、夜官民共同主催歡迎会ニ職員生徒総員普通海員出席ス		
八	火	船長出港挨拶、生徒普通海員半艇上陸、夜根據地隊司令官招待晚餐會		
九	水	午前出港		

自厦門 至長崎

七月九日午前七時二十五分發船、佐世保ニ向フ、發船ト同時ニ時計ヲ一時同後退セリ。同七時十分青嶼燈台ニ五度四分ノ一理ニ航過、同八時十三分金門堆嘴浮標三三〇度距離ニ理四分ノ三ノ位置ニ於テ機関ヲ停止シ南々西ノ軟風ニ駕シ帆走ニ移リ名瀾海峡ノ中央部ニ出ヅルヤ風力四乃至五、十日早曉、早クモ海峽ヲ脱シ、尚快走ヲ續ケ十一日正午ニハ北緯ニ七度四九分東經一ニ三度ニ九分ニ達シタルモ此頃揚子江下流附近ニ七四八程度ノ一低氣圧東進シツ、アリタルヲ以テ漸次諸帆ヲ裁シ夕刻ニハフオースルレ一枚ニテ速クノ調節ヲナシ、翌日之ヨリ通過後再び諸帆ヲ展シ帆走ヲ繼續セリ。之ヨリ先厦門出港前普通海員ニ疑似赤痢患者一名發生漸次衰弱ノ度ヲ加ヘ、經過良好ナラス、急速ニ入院カ療ノ必要ヲ認メ十四日午後零時十八分總員ニテ總帆ヲ收メ機走ヲ以テ一路長崎ニ直航セリ。然ルニ中支大陸ヨリ相前後シテ東進シ來ル諸低氣圧ノ影響ヲ受ケ概ネ北東乃至北ノ風波強烈トナリ速力着シク裁殺セラレタルモ十六日午後四時四十五分野母崎燈台一一〇度距離六理半ニ並航同五時五十五分伊王島燈台一二三度距離四分ノ三理ニ並航同七時十分長崎港ニ到着セリ。本航海ハ名瀾海峡附

近ニ於テハ南西信風強吹ノ為快走シタルモ北上スルニ從ヒ連續低氣圧ノ影響ヲ受ケ北東ノ逆風トナリタリ。尚疑似赤痢患者發生ノタメ機走航程多クナリタリ海流ハ名瀾海峡及び其ノ北方ニ於テハ北東ノ強海流ニシテ北上スルニ從ヒ東流トナルヲ認ム。

長崎 碇泊

月	日	曜	事
七、一六	水		午後入港
一七	木		船長公式訪問
一八	金		生徒、普通海員半航半日宛自由上陸
一九	土		船長民友新聞社主催海ノ記念日座談會出席 出島棧橋ニ乾鑿
二〇	日		海ノ記念日ニ付船節施行、船内公開及各行事ニ参加ス 午後帆前操練夜生徒總員普通海員半航「海ノ夕」ニ出席
二一	月		(於出島三菱會館) 午前長崎事情講演會(於生徒食堂 益田市立圖書館長)

二二	火	午後生徒普通海員半艇充交替上陸 上井首海洋少年団員七八名乗船 午前出港
----	---	---

自長崎 至佐世保

午前六時五十五分長崎港ヲ發シ佐世保ニ向フ。同七時四十六分伊王島燈台ニ至
五度一理半ニ並航、同八時十六分神樂島(五六米)ニ至二度一理四分ノ三ノ位置
ニ於テ佐世保入港時刻調節ノタメ機関ヲ停止漂流シ、生徒ニ交叉方位ノ練習ヲ
行ハシム。同九時二十七分再ビ航進ヲ起シ同十時〇分小角力名四ニ度一理ニ並
航母子島トノ間ヲ航過更ニ松島ト地島トノ間ヲ經テ、同十一時三ニ分御床島ヲ
廻航同零時十六分片島一〇度四分ノ三理ニ並航同零時五十分白瀬燈台一六六
度四分ノ三理ニ航過ニ同一時〇七分向後崎燈台ヲ過ギ佐世保港務部汽艇ノ嚮導
ヲ得テ同二時〇一五号繫留浮標ニ繫留佐世保港ニ到着セリ。

佐世保 碇泊

月日	曜	行	事
七、二二	火	午後入港、船長公式訪問	
二三	水	船長及職員代表大畑興亞学生勤勞報告隊長招待午餐會出席 生徒普通海員半艇充交替自由見學上陸	
二四	金	午前職員及生徒總員某軍艦及軍需部見學 司令長官主催午餐會ニ職員出席 人事部長主催午餐會ニ生徒總員出席 午後生徒自由見學 普通海員半艇自由上陸 生徒半艇半日上陸 普通海員半艇自由上陸 船長出港挨拶	
二六	日	興亞学生勤勞報國隊一八名乗船 午前出港	

自佐世保 至上海

七月二十六日午前六時四十分興亞学生勤勞報國隊員一八名ヲ便乗セシメ、佐

世保ヲ飛シ上海ニ向フ。同七時三十四分向後崎ヲ過ギ同七時四十分白瀬燈台一八〇度二分ノ一理ヲ經、同九時〇七分大立島燈台三一〇度二理半ニ並航セリ。同十一時北微東ノ軟風トナリタルヲ以テ総員ニテ総帆ヲ展シ帆機並用、午後一時十八分黃島燈台三一〇度五理半ニ過ギ南西微西二分ノ一西ニ転針、午後四時ニ至リ風力衰ハタルヲ以テ諸帆ヲ絞リ機走ノミトナセリ。同六時女島燈台一四五度六理ニ並航之ヨリ西航セリ。翌二十七日細雨ト共ニ風位漸次右転シ東北東ノ和風トナリ上海入港予定時刻迄充分ノ余裕アルベキヲ予想シタルヲ以テ午前九時總短艇部署操練後同十一時十三分ソコトラロツクルノ南方一五理ノ地矣ニ於テ機内ヲ停止シ帆走ニ移ル。細雨尚降り薄霧ノ未襲屢々ナリ。依テ午後九時五十四分再ビ諸帆ヲ收メ機走ニ復シ一路花鳥山燈台ニ向フ。翌二十八日天候幸ニ恢復シ午前四時五十分花鳥山燈光芒ヲニ四三度距離約二六理ニ初認シ、同七時四十五分一八三度五理四分ノ三ニ並航、同九時弱者救助操練、續イテ防空部署操練ヲ施行シ救遣隊員ニ見學セシメ、其後隊員ニハ登艦訓練ヲ課ス。午前十一時三十分「ベルグイル」附近ニ到着、同十一時五十二分高山水先人乗船、其ノ嚮導ノ下ニ揚子江ヲ溯航、午後三時四十五分吳淞檢疫船地ニ

投錨シテ交通許可証ヲ得テ假泊シ、翌二十九日午前七時半、投錨黃浦江ヲ溯航シ同十一時上海朝日棧橋ニ繫泊セリ。本航海八極メテ順調ニシテ興亞勤勞學生報國隊ノ輸送ナカリセバ充分ナル帆走航海ヲナシ得タルベシ

上海旋泊

月日	曜	行	前	午	後	事
七、二九	火	二、〇〇朝日棧橋繫泊、興亞學生勤勞報國隊員下船		船長公式訪問	七、〇〇職員故郷晚餐會(於三華)	主催船船會社及商船學校出身有志
三〇	水	船長公式訪問、普通海員半艦一日上陸		職員、生徒總員見學(江南ドック、租界、陸戰隊本部等)	六、三〇職員、生徒總員招待會(於日本俱樂部)主催各商船學校出身有志	七、〇〇職員招待會(於日華クラブ)主催總領事館、日
三一	木	職員、生徒總員、戰跡見學、普通海員半艦一日上陸				
一	金	職員生徒總員蘇州見學				
二	土	生徒半艦一日自由上陸、船内一般公開、普通海員半艦戰跡見學				七、〇〇講演會(於本船)

達シ屢々強烈ナル感アリ。依テ船頭ヲ延シ機関ヲ準備セリ。翌十五日ハ八風稍
收マリタルヲ以テ早朝出港準備ヲナシ、午前七時半出港部署ニ就キ同七時五十
分投錨口ノ瀬崎ヲ航過スルヤ北西ノ強風アリ。觀列島ニ沿ヒ南西方ニ航シ同十
時十八分釣掛埼燈台七九度四理ノ位置ニ於テ機関ヲ停止シ、北西微北ノ疾風ニ
駕シ帆走ニ移リ大隅海峡ニ向フ。午後〇時二十三分鷹島(六八米)ヲ九六度五
理ニ並航、同八時〇分坊ノ岬燈火ヲ六理半ニ並航セリ。此ノ頃ヨリ風力微弱ト
ナリ十六日午後三時半漸ク佐田岬ノ南方六理半ヲ航過シ極力東航ヲ續ケタルモ
翌十七日午後ニ至リ着ク北方ニ圧流セラル、ヲ以テ同四時十分機走ニ移リ同
四時四十五分柳井岬ノ南方一四理ヲ過ギ大隅海峡ヲ脱シ同八時十分機関停止シ
再び帆走ニ復シ南東ノ輕風ニ乘シ北東方ニ航シタルモ風力微弱ニシテ速力遅々
タリ。然ルニ、二十日ニ至リ沖繩附近ノ颱風次第ニ発達シ中心示度七二〇花、
北々東ニ進行中ニシテ更ニ北東ニ轉向ノ傾向アル旨ノ警報アリ。且ツ南々西ノ
長溝新次増火スルヲ以テ午後六時機走ヲ開始シ東京灣ニ向フコト、セリ。二十
一日午前十時三木崎ノ燈台ヲ三一六度二四理半ニ認め同日午後七時〇五分御前
崎ノ燈火ヲ二三度一九理半ニ初認シ同八時二十六分同燈火三四七度一五理ニ並

航、同十一時五十七分神子元燈火ヲ三四七度五理ニ航過シ翌二十二日午前二時
二十八分大島燈火一三一度三理四分ノ三ニ過ギ同四時四十八分洲ノ崎燈火ヲ一
三四度六理四分ノ一ニ過ギ同五時十五分ヨリ旋回シテ自差測定ヲ行ヒ、同七時
五十二分觀音崎燈台ヲ過ギ第二、第三海峽間ヲ經テ、同九時十五分根岸灣ニ投
錨候泊ノ上、生徒ニ特別訓練ヲ行ヒ同日午後六時候泊船地ヲ発シ同六時四十分
横濱檢校船地ニ投錨、翌二十三日早朝檢校並ニ税関手續ヲ了シ、同九時四十分
横濱ヲ發シ同十一時四十分東京港ニ帰着シ第二十四次航海ヲ無事完了セリ。
本航海ハ適風ニ恵マレズ、颱風發生時期ナリシヲ以テ避泊又ハ避航シタル爲メ
ニ機走稍多クナリタリ。海流ハ東海東部ニ於テハ北流ヲ九州南東ニ於テハ矢ニ
優勢ナル北東流ヲ土佐沖ニ於テハ東南東流ヲ經驗セリ

五、寄港地事情

寄港地廈門、上海ハ各種ノ文献アルヲ以テ省略ス。
尚事変後ニ於ケル諸統計ハ未ダ單機ニ屬スル爲メ入手ニ得ザリキ。

六、學習記事

一、概況

往航ハ其ノ大部分熱帯航海ナリシモ厦門碇泊ヲ除イテハ暑氣甚シカラズ。復航
モ亦氣温快適ニシテ八月七日ヨリ九日ニ至ル三日間ノ颱風以外ニハ海上至極平
穩ニシテ荒天ノタメ學習ヲ課シ得ザリシコトナク、環境ハ概シテ學習ニ適シ、
天候ハ其ノ他支障無キ限リ前航ト同様午前總員學習ヲ午後作業ヲ課シ至極好結
果ヲ收メ得タリ。

往航ハ五月二十四日東京ヲ出航シ同月二十八日ヨリ週課表ニ依リ學習ヲ開始シ
厦門ヲ經テ長崎ニ到着セル迄約六週間正規ノ學習ヲ行ヒ、復航ハ八月五日上海
ヲ出港横濱經由、八月二十三日、東京帰着迄ノ間ニ於テ約一週間余ニ亘リ殆
定ノ項目ヲ終了シ、八月十八日ヨリ四日間、後期考查ヲ行ヒ考查後ハ特別日課
ヲ施行セリ。本航海ノ寄港地ハ我が國南方經綸上ノ要地並ニ皇軍將兵ノ奮闘シ
ツ、アル第一線ニシテ之等寄港地ニ於ケル具體的現状ヲ具ニ見聞シ、一同、眞
ニ東亞新秩序建設ニ對スル認識ヲ新ニシ且ツ得ル処頗ル大ナルモノアリト信ス

二、學習週課表及擔任

曜時	第一時		第二時	
	午前	午後	午前	午後
月	航海術 首席三等運転士	無線電信 首席通信士	航海術 首席三等運転士	無線電信 首席通信士
火	応用力學運用 二等運転士	英語法規 次席一等運転士	航海術 首席三等運転士	無線電信 首席通信士
水	操 練	學習又ハ講話	航海術 首席三等運転士	無線電信 首席通信士
木	海運 一等運転士	衛生 船医	航海術 首席三等運転士	無線電信 首席通信士
金	測器氣象 次席一等運転士	機関學 機関長	航海術 首席三等運転士	無線電信 首席通信士
土	午前光程大掃除	航海術 首席三等運転士	航海術 首席三等運転士	無線電信 首席通信士

三、學習要項

- 船長特別講話 (二時間)
- 一、興亞ノ大業ト戰陣訓
- 二、颱風經過並ニ処置
- 応用力學 (六時間)
- 一、重心
- 二、シンプソン氏法則
- 三、浮力ノ中心
- 四、メタセンター
- 五、スタビリティ
- 六、トリム及吃水